

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  カウンセリング入門	授業の種類  ( 講義・ <b>演習</b> ・ 実習 )	授業担当 者  板垣 寛	当該科目に関する実 務経験  臨床心理士 児童相談所相談員 児童発達支援センター相 談員																														
授業の回数  15 回	時間数 (単位数)  30 時間 (1 単位)	配当学年・時期  2 年・後期	必修・選択  必修																														
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>演習形式でカウンセリングとその理論について学ぶことで実践的な面接技法の獲得を目指す。またエンカウンターグループを用いた体験過程を通じて、自己理解と他者理解、対人関係の在り方を考えることでアイデンティティ形成と職業イメージの獲得を目指す。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>対人援助職を目指す上でのカウンセリングマインドの獲得と、自己表現やグループのもつ力について経験的に学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>(1)グループでの体験を通して感じた「自分とは何か」「どのような存在か」という問いに対して自分なりの言葉で説明できる。</p> <p>(2)カウンセリングにおける「共感的理解」「無条件の肯定的関心」「自己一致」について説明できる。</p> <p>(3)グループワークにおける「ファシリテーション」とカウンセリングにおける「セラピスト」の役割について説明できる。</p> <p>(4)ファシリテーターとして、エンカウンターグループの導入と実践ができる。</p>																																	
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <table border="0"> <tr> <td>1. グループワークガイダンス</td> <td>カウンセリング理論とグループワークの進め方</td> </tr> <tr> <td>2. カウンセリングと自己成長</td> <td>カウンセリングの定義と必要性</td> </tr> <tr> <td>3. 構成的エンカウンター①</td> <td>メンバー内での自己紹介と方向付け</td> </tr> <tr> <td>4. 構成的エンカウンター②</td> <td>価値観のワーク</td> </tr> <tr> <td>5. 構成的エンカウンター③</td> <td>NASA ゲームを用いてのワーク</td> </tr> <tr> <td>6. カウンセリング演習①</td> <td>ペアワークによるカウンセリングロールプレイ</td> </tr> <tr> <td>7. カウンセリング演習②</td> <td>逐語記録を元にした面接の振り返り</td> </tr> <tr> <td>8. ベーシックエンカウンター①</td> <td>メンバーズセッション (課題非提示によるワーク)</td> </tr> <tr> <td>9. ベーシックエンカウンター②</td> <td>メンバーズセッション (体験過程の共有)</td> </tr> <tr> <td>10. ベーシックエンカウンター③</td> <td>メンバーズセッション (学生主導の企画)</td> </tr> <tr> <td>11. ベーシックエンカウンター④</td> <td>メンバーズセッション (振り返り)</td> </tr> <tr> <td>12. ベーシックエンカウンター⑤</td> <td>メンバーズセッション (総括とフィードバック)</td> </tr> <tr> <td>13. カウンセリング演習③</td> <td>カウンセリング演習②を踏まえてのロールプレイ</td> </tr> <tr> <td>14. カウンセリング演習④</td> <td>逐語記録を元にした面接の振り返り</td> </tr> <tr> <td>15. 期末試験</td> <td></td> </tr> </table>				1. グループワークガイダンス	カウンセリング理論とグループワークの進め方	2. カウンセリングと自己成長	カウンセリングの定義と必要性	3. 構成的エンカウンター①	メンバー内での自己紹介と方向付け	4. 構成的エンカウンター②	価値観のワーク	5. 構成的エンカウンター③	NASA ゲームを用いてのワーク	6. カウンセリング演習①	ペアワークによるカウンセリングロールプレイ	7. カウンセリング演習②	逐語記録を元にした面接の振り返り	8. ベーシックエンカウンター①	メンバーズセッション (課題非提示によるワーク)	9. ベーシックエンカウンター②	メンバーズセッション (体験過程の共有)	10. ベーシックエンカウンター③	メンバーズセッション (学生主導の企画)	11. ベーシックエンカウンター④	メンバーズセッション (振り返り)	12. ベーシックエンカウンター⑤	メンバーズセッション (総括とフィードバック)	13. カウンセリング演習③	カウンセリング演習②を踏まえてのロールプレイ	14. カウンセリング演習④	逐語記録を元にした面接の振り返り	15. 期末試験	
1. グループワークガイダンス	カウンセリング理論とグループワークの進め方																																
2. カウンセリングと自己成長	カウンセリングの定義と必要性																																
3. 構成的エンカウンター①	メンバー内での自己紹介と方向付け																																
4. 構成的エンカウンター②	価値観のワーク																																
5. 構成的エンカウンター③	NASA ゲームを用いてのワーク																																
6. カウンセリング演習①	ペアワークによるカウンセリングロールプレイ																																
7. カウンセリング演習②	逐語記録を元にした面接の振り返り																																
8. ベーシックエンカウンター①	メンバーズセッション (課題非提示によるワーク)																																
9. ベーシックエンカウンター②	メンバーズセッション (体験過程の共有)																																
10. ベーシックエンカウンター③	メンバーズセッション (学生主導の企画)																																
11. ベーシックエンカウンター④	メンバーズセッション (振り返り)																																
12. ベーシックエンカウンター⑤	メンバーズセッション (総括とフィードバック)																																
13. カウンセリング演習③	カウンセリング演習②を踏まえてのロールプレイ																																
14. カウンセリング演習④	逐語記録を元にした面接の振り返り																																
15. 期末試験																																	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>・エッセンス 学校教育心理学 北大路書房</p>																																	
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点 (75%)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点 (25%)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>																																	

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  こどもと自然	授業の種類  ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者  柳田 真理子	当該科目に関する実務経験  保育士
授業の回数 30回	時間数 (単位数) 60時間 (2単位)	配当学年・時期 1年後期・2年前期	必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳幼児期には日常的に自然に触れ合うことが重要であるということを踏まえ、四季折々の活動を通して現場での実践力を身につける。</li> </ul> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主に校外での活動を行い、自然と触れ合う中で、乳幼児期の自然との関わりの重要性やそれに伴った活動の計画、援助の仕方などを知る。</li> </ul> <p><b>[授業終了時の達成課題 (到達目標) ]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な体験を通して、保育者としての感受性を豊かにする</li> <li>・ 自然の摂理や生命の尊さを理解し、植物の栽培に取り組み、保育現場で生かせる技術を修得する。</li> </ul>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>&lt; 1年後期 &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもと自然をむすぶために自然事象「雪・霰・霽・雹」             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然の中の循環を理解する (種子散布など)</li> </ul> </li> <li>2. 野菜を育てよう! ①             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 野菜の基礎知識～特徴や栽培の留意点など～</li> </ul> </li> <li>3. 野菜を育てよう! ②             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 秋冬野菜の育て方</li> </ul> </li> <li>4. 色々な自然の話             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然の中の約束や付き合い方</li> </ul> </li> <li>5. 自然の「かかり」をしる             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然のかかりの仕事って? (3つの仕事を知ろう!)・悪い虫? 良い虫?</li> </ul> </li> <li>6. サツマイモ収穫 (収穫の際の注意・収穫後)</li> <li>7. 秋の味覚を楽しむ (～素材の味でサツマイモを食す～)</li> <li>8. 自然事象「虹のメカニズム」(12月2日)</li> <li>9. 自然事象「雷の発生のメカニズム」</li> <li>10. 自然事象「影ってどうして追いかけてくるの?」</li> <li>11. 自然事象「雪・霰・霽・雹の違いとは」</li> <li>12. 冬の自然と戸外遊び</li> <li>13. 自然の中の保育①</li> <li>14. 自然の中の保育②</li> <li>15. 論文: こどもと自然経験 (テスト)</li> </ol>			

< 2年前期 >

1. 散歩（お花見）
2. 野菜を育てよう① 野菜の育て方や苗植えのポイントを知る
3. 野菜を育てよう② ジャガイモの苗を植える
4. }
5. } 自然体験（校外授業）
6. }
7. }
8. 野菜を育てよう③ ジャガイモの成長を観察する
9. 野菜を育てよう④ //
10. 梅雨時期の自然を知ろう① 梅雨時期の生き物と植物
11. 梅雨時期の自然を知ろう② 梅雨時期の室内遊び
12. 水遊び 色水あそび
13. 野菜を育てよう⑤ ジャガイモの収穫
14. 野菜を育てよう⑥ 収穫したジャガイモでクッキング
15. 期末試験

[使用テキスト・参考文献]

- ・地球市民を育てる～子どもと自然を結ぶ～ 圭文社

[成績評価の方法と基準]

教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

- ・ 考查点 (75%)
  - ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末考查を実施する。
- ・ 平常点 (25%)
  - ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。
  - ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） こどもの健康と安全		授業の種類 ( 講義・演習・実習 )		授業担当者 柳田 真理子	当該科目に関する実務経験 保育士
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（1単位）	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近年のデータを踏まえ、子どもの健康・安全を配慮することの必要性を理解する。</li> <li>・ 保健的対応について正しく理解し、緊急時に適切な対応が取れる。</li> <li>・ 子どもの健康・安全を管理するためのガイドラインや実施体制について把握する。</li> </ul> <p>[授業の概要]</p> <p>子どもの健康や安全を守るために必要な基礎的な知識を習得し、適切な保育環境の在り方について考える。また、万一の場合に備え、保育士として適切な対応が取れるような技術を身に付ける。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの健康や安全を守るために必要な基礎的な知識や技術を習得している。</li> <li>・ 子どもの健康・安全に配慮した保育環境を構成することができる。</li> <li>・ 子どもの健康・安全を管理するため仕組みの概要を理解している。</li> </ul>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、子どもの健康・安全に配慮した保育環境</li> <li>2. 保育における保健的対応の基本</li> <li>3. 保育における保健活動の計画及び評価</li> <li>4. 衛生管理</li> <li>5. 感染症の予防と対応</li> <li>6. 事故防止及び安全対策</li> <li>7. 危機管理</li> <li>8. 災害への備え</li> <li>9. 身近な環境における安全への配慮</li> <li>10. 緊急時における子どもへの処置と対応法</li> <li>11. 3歳未満児への保健的対応</li> <li>12. 個別的な配慮（慢性疾患、アレルギー性疾患等）を要する子どもへの対応</li> <li>13. 障害のある子どもへの対応</li> <li>14. 健康及び安全管理の実施体制</li> <li>15. 期末試験</li> </ol>					
<p>[使用テキスト]</p> <p>◎『やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズよくわかる子どもの保健（使用テキスト）』 竹内義博・大矢紀昭（編）／ミネルヴァ書房</p> <p>※必要に応じて適宜、資料を提示する</p>					
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>					

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  こどもの食と栄養 I	授業の種類  ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者  須貝 裕	当該科目に関する実務経験																																													
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修																																													
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小児の栄養と食生活の重要性を理解し、栄養、食物、献立、調理等に関する基本的知識を理解する。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生涯にわたる健康な生活の基礎になる小児期の栄養と食生活について理解を深め、小児の発達段階に応じた基礎的知識と応用能力を養う。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小児の栄養と食生活の重要性を理解でき、栄養、食物、献立、調理等に関する基礎的知識を習得する。</li> </ul>																																																
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">1</td> <td style="width: 30%;">子どもの健康と食生活の意義①</td> <td style="width: 40%;">*子どもの心身の健康と食生活</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>子どもの健康と食生活の意義②</td> <td>*子どもの食生活の現状と課題</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>栄養の基本①</td> <td>*栄養とは? *食べ物の行方 *栄養の摂り方</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>栄養の基本②</td> <td>*子どもの栄養の特徴①</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>栄養の基本③</td> <td>*子どもの栄養の特徴②</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>栄養素の種類と働き①</td> <td>*栄養素の種類と働き *水分代謝</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>栄養素の種類と働き②</td> <td style="text-align: center;">,, ,,</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>栄養素の種類と働き③</td> <td style="text-align: center;">,, ,,</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>日本人の食生活の目標①</td> <td>*日本人の食事摂取基準*食事バランスガイド*食生活指針</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>日本人の食生活の目標②</td> <td style="text-align: center;">,, ,, ,,</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>献立作成・調理の基本①</td> <td>*献立作成の基本 *調理の基本</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>献立作成・調理の基本②</td> <td>*調理実習 (幼児食の基本)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>献立作成・調理の基本③</td> <td style="text-align: center;">,,</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>前期試験のポイント</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末試験</td> <td></td> </tr> </table>				1	子どもの健康と食生活の意義①	*子どもの心身の健康と食生活	2	子どもの健康と食生活の意義②	*子どもの食生活の現状と課題	3	栄養の基本①	*栄養とは? *食べ物の行方 *栄養の摂り方	4	栄養の基本②	*子どもの栄養の特徴①	5	栄養の基本③	*子どもの栄養の特徴②	6	栄養素の種類と働き①	*栄養素の種類と働き *水分代謝	7	栄養素の種類と働き②	,, ,,	8	栄養素の種類と働き③	,, ,,	9	日本人の食生活の目標①	*日本人の食事摂取基準*食事バランスガイド*食生活指針	10	日本人の食生活の目標②	,, ,, ,,	11	献立作成・調理の基本①	*献立作成の基本 *調理の基本	12	献立作成・調理の基本②	*調理実習 (幼児食の基本)	13	献立作成・調理の基本③	,,	14	前期試験のポイント		15	期末試験	
1	子どもの健康と食生活の意義①	*子どもの心身の健康と食生活																																														
2	子どもの健康と食生活の意義②	*子どもの食生活の現状と課題																																														
3	栄養の基本①	*栄養とは? *食べ物の行方 *栄養の摂り方																																														
4	栄養の基本②	*子どもの栄養の特徴①																																														
5	栄養の基本③	*子どもの栄養の特徴②																																														
6	栄養素の種類と働き①	*栄養素の種類と働き *水分代謝																																														
7	栄養素の種類と働き②	,, ,,																																														
8	栄養素の種類と働き③	,, ,,																																														
9	日本人の食生活の目標①	*日本人の食事摂取基準*食事バランスガイド*食生活指針																																														
10	日本人の食生活の目標②	,, ,, ,,																																														
11	献立作成・調理の基本①	*献立作成の基本 *調理の基本																																														
12	献立作成・調理の基本②	*調理実習 (幼児食の基本)																																														
13	献立作成・調理の基本③	,,																																														
14	前期試験のポイント																																															
15	期末試験																																															
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「子どもの食と栄養」 第5版 健康と食べることの基本 (医歯薬出版株式会社)</li> </ul>																																																
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>																																																

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  こどもの食と栄養Ⅱ	授業の種類  ( 講義・演習・実習 )	授業担当者  須貝 裕	当該科目に関する 実務経験																														
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修																														
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小児の適正な心身発達の一助となるよう、献立作成、調理、盛りつけ、配膳等の実際についての基礎知識及び技能を養う。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消化能力の未発達な、また抵抗力の弱い小児の食事を用意するのであることを念頭におき、特に調理法、衛生面等に配慮して行う。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小児の栄養と食生活の重要性を理解し、献立作成、調理、盛りつけ、配膳等の実際についての基礎知識及び技能を習得する。</li> </ul>																																	
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 45%; padding: 5px;">1 乳幼児期の授乳の意義と食生活</td> <td style="width: 5%; text-align: center;">}</td> <td style="width: 50%; padding: 5px;">*乳児期の栄養・食生活の特徴 *乳児期の食べる機能、食行動の変化 *母乳の栄養と母乳育児 *人口栄養</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">2 乳幼児期の離乳の意義と食生活①</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">}</td> <td rowspan="2" style="padding: 5px;">*離乳の定義と必要性 *離乳の進め方と実際 *食事の目安 *離乳の完了 *成長の目安 *調理実習 (離乳食)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">3 乳幼児期の離乳の意義と食生活②</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">4 幼児期の心身の発達と食生活①</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">}</td> <td rowspan="2" style="padding: 5px;">*幼児期の成長と発達 *幼児期の栄養</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">5 幼児期の心身の発達と食生活②</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">6 学童期・思春期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活 ①</td> <td></td> <td style="padding: 5px;">*学童期、思春期の成長と発達 *学童期・思春期の食生活の特徴 *生涯発達の考え方 *妊娠期、授乳期の栄養と食生活</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">7 学童期・思春期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活②</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">8 保育における食育の意義・目的と基本的な考え方①</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">}</td> <td rowspan="2" style="padding: 5px;">*子どもの食生活の問題点 *食育推進のための体制づくり*食育基本法 *食育推進基本計画 *保育所等における食育の考え方</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">9 保育における食育の意義・目的と基本的な考え方②</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">10 食育の内容と計画及び評価</td> <td></td> <td style="padding: 5px;">*保育の一環としての食育の展開 *食育の内容 *食育計画及び評価 *食育のための環境</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">11 地域や家庭と連携した食育の展開</td> <td></td> <td style="padding: 5px;">*地域の関係機関との連携や職員間の連携 *食生活指導・助言及び食を通じた保護者への支援</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">12 家庭や児童福祉施設における食事と栄養</td> <td></td> <td style="padding: 5px;">*家庭における食生活上の問題点 *家庭における食事の役割 *児童福祉施設の役割</td> </tr> </table>				1 乳幼児期の授乳の意義と食生活	}	*乳児期の栄養・食生活の特徴 *乳児期の食べる機能、食行動の変化 *母乳の栄養と母乳育児 *人口栄養	2 乳幼児期の離乳の意義と食生活①	}	*離乳の定義と必要性 *離乳の進め方と実際 *食事の目安 *離乳の完了 *成長の目安 *調理実習 (離乳食)	3 乳幼児期の離乳の意義と食生活②	4 幼児期の心身の発達と食生活①	}	*幼児期の成長と発達 *幼児期の栄養	5 幼児期の心身の発達と食生活②	6 学童期・思春期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活 ①		*学童期、思春期の成長と発達 *学童期・思春期の食生活の特徴 *生涯発達の考え方 *妊娠期、授乳期の栄養と食生活	7 学童期・思春期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活②			8 保育における食育の意義・目的と基本的な考え方①	}	*子どもの食生活の問題点 *食育推進のための体制づくり*食育基本法 *食育推進基本計画 *保育所等における食育の考え方	9 保育における食育の意義・目的と基本的な考え方②	10 食育の内容と計画及び評価		*保育の一環としての食育の展開 *食育の内容 *食育計画及び評価 *食育のための環境	11 地域や家庭と連携した食育の展開		*地域の関係機関との連携や職員間の連携 *食生活指導・助言及び食を通じた保護者への支援	12 家庭や児童福祉施設における食事と栄養		*家庭における食生活上の問題点 *家庭における食事の役割 *児童福祉施設の役割
1 乳幼児期の授乳の意義と食生活	}	*乳児期の栄養・食生活の特徴 *乳児期の食べる機能、食行動の変化 *母乳の栄養と母乳育児 *人口栄養																															
2 乳幼児期の離乳の意義と食生活①	}	*離乳の定義と必要性 *離乳の進め方と実際 *食事の目安 *離乳の完了 *成長の目安 *調理実習 (離乳食)																															
3 乳幼児期の離乳の意義と食生活②																																	
4 幼児期の心身の発達と食生活①	}	*幼児期の成長と発達 *幼児期の栄養																															
5 幼児期の心身の発達と食生活②																																	
6 学童期・思春期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活 ①		*学童期、思春期の成長と発達 *学童期・思春期の食生活の特徴 *生涯発達の考え方 *妊娠期、授乳期の栄養と食生活																															
7 学童期・思春期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活②																																	
8 保育における食育の意義・目的と基本的な考え方①	}	*子どもの食生活の問題点 *食育推進のための体制づくり*食育基本法 *食育推進基本計画 *保育所等における食育の考え方																															
9 保育における食育の意義・目的と基本的な考え方②																																	
10 食育の内容と計画及び評価		*保育の一環としての食育の展開 *食育の内容 *食育計画及び評価 *食育のための環境																															
11 地域や家庭と連携した食育の展開		*地域の関係機関との連携や職員間の連携 *食生活指導・助言及び食を通じた保護者への支援																															
12 家庭や児童福祉施設における食事と栄養		*家庭における食生活上の問題点 *家庭における食事の役割 *児童福祉施設の役割																															

- |                        |                                       |
|------------------------|---------------------------------------|
| 1 3 特別な配慮を要する子どもの食と栄養① | *子どもの疾患及び体調不良の特徴<br>*疾患及び体調不良の子どもへの対応 |
| 1 4 特別な配慮を要する子どもの食と栄養② | *食物アレルギーのある子どもへの対応<br>*障害のある子どもへの対応   |
| 1 5 期末試験               |                                       |

[使用テキスト・参考文献]

- 新基本保育シリーズ 子どもと食の栄養 (中央法規)
- 配布プリント

[成績評価の方法と基準]

教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

- 考查点(75%)
  - ・到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末考查を実施する。
- 平常点(25%)
  - ・事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。
  - ・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業タイトル (科目名)  こどもの心理学	授業の種類  ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )	授業担当者  板垣 寛	当該科目に関する 実務経験  臨床心理士 児童相談所相談員 児童発達支援センター 相談員
授業の回数  15 回	時間数 (単位数)  30 時間 (2 単位)	配当学年・時期  2 年・後期	必修・選択  必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>こどもという存在を深く理解するために、そもそもこどもとは何を指すかを多方面からまず考え、さらに、人間とは何かという根本的な問い掛けを行う。こどものあり方とこどもの育ちへの支援のあり方を基本からとらえ直すことを目的とする。</p> <p>[授業の全体の概要]</p> <p>教育学的現代社会論的アプローチ、保育教育実践的アプローチ、歴史的文化的アプローチ、により、多面的にこどもの歴史、現状、未来を概観する。また将来、保育士の免許・資格を得る人のための基礎的な知見とするようにしたい。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>こどもの心理、またこどものあり方の幅の広がり理解する。特に、歴史や文化による違いが説明できることを到達目標とする。現代社会のこどもの処遇やその保育・教育を含めた支援のあり方とポイントを知ること、こどもの心理について、多様な学問が集まって作っている研究分野の概要から、こどもの心理研究の仕方についての基礎が説明できるようにする。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. こどもの心理概説 こどもという存在について、成人と比較する</li> <li>2. 教育学的現代社会論的アプローチ①現代社会の特徴を人類史の中で考える</li> <li>3. 教育学的現代社会論的アプローチ②現代社会の特徴を子育て、恋愛、男女関係、家族等から考える</li> <li>4. 教育学的現代社会論的アプローチ③現代社会において教育・育児の新たな課題は何かを考える</li> <li>5. 教育学的現代社会論的アプローチ④こどもの心理を知ることが現代の教育・育児の課題にどう応えられるか考える</li> <li>6. 保育教育実践的アプローチ①保育所の様子を1・2歳児の保育の場面から知る</li> <li>7. 保育教育実践的アプローチ②こども園の様子を3・4・5歳児のこども園における成長の姿から知る</li> <li>8. 保育教育実践的アプローチ③保育所の保育の一つの最後の段階として「協同的な学びの活動」を検討する</li> <li>9. 保育教育実践的アプローチ④幼児教育と小学校教育の連携・接続を紹介し現代の新たな課題について学ぶ</li> <li>10. 保育教育実践的アプローチ⑤小学校の授業について実際の場面を検討しつつ要点を学ぶ</li> <li>11. 歴史的文化的アプローチ①&lt;子ども&gt;とは何者か—存在としての子どもと概念としての子ども—</li> <li>12. 歴史的文化的アプローチ②歴史のなかの子どもを探る—子どもの誕生と生育をめぐって—</li> <li>13. 歴史的文化的アプローチ③社会のなかの子どもを探る—子どもの遊び、学習、労働をめぐって—</li> <li>14. 歴史的文化的アプローチ④文化のなかの子どもを探る—子どもの想像力と創造性—</li> <li>15. 期末試験</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>・あなたの経験とつながる教育心理学                      ミネルヴァ書房</p>			
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点(75%)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点(25%)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)	授業の種類	授業担当者	当該科目に関する実務経験
こどもの生活と環境 I	( 講義・ <span style="border: 1px solid black;">演習</span> ・実習 )	青田 由美子	保育士
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30 時間 (1 単位)	1 年・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所保育指針の領域「環境」の意図しているねらいや内容をふまえ、事例を通して子どもにとっての環境の意味を理解し、子どもの生活や経験に結びついた保育を考えていく力を育む。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常生活のさまざまな場面で、子どもがかかわる人的環境、物的環境、自然環境について、様々な事例を通して学習する。受動的学習ではなく、ワークショップ、ディベートなどを取り入れ、学生自身が主体性をもって学ぶことができるようにする。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所保育指針の領域「環境」の意図しているねらいや内容を理解する。</li> <li>・ 子どもにとっての環境の意味を理解する。</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション／第 1 章 保育と「環境」／第 2 章 領域「環境」とは</li> <li>2. 第 3 章 子どもの育ちと領域「環境」／第 4 章 子どもを取り巻く人的環境①</li> <li>3. 第 4 章 子どもを取り巻く人的環境②</li> <li>4. 第 5 章 子どもを取り巻く物的環境①</li> <li>5. 第 5 章 子どもを取り巻く物的環境②</li> <li>6. 第 6 章 子どもを取り巻く社会的環境</li> <li>7. 第 7 章 子どもを取り巻く自然環境①</li> <li>8. 第 7 章 子どもを取り巻く自然環境②</li> <li>9. 第 8 章 子どもの生きる力を育む環境①</li> <li>10. 第 8 章 子どもの生きる力を育む環境②</li> <li>11. 第 9 章 子どもを守り育てる環境</li> <li>12. 第 10 章 気になる子どもと環境</li> <li>13. 第 11 章 環境を通じた教育・保育の現在の課題</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 期末試験</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所保育指針</li> <li>・ 保育内容「環境」あなたならどうしますか？ 萌文書林</li> <li>・ 事例で学ぶ保育内容 環境 萌文書林</li> </ul>			
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点 (75%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点 (25%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  こどもの生活と環境Ⅱ	授業の種類  ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者  神林美保子	当該科目における実務経験  保育士
授業の回数  15 回	時間数 (単位数)  30 時間 (1 単位)	配当学年・時期  2 年・前期	必修・選択  必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「こどもの生活と環境Ⅰ」での学習を基に、学生自身が様々な環境に関わり、子どもの生活や経験に結びついた保育の展開を考えていく力を育む。</li> <li>・ 様々な視点から環境を捉えて自分の保育観を養い、現場での実践力を培う。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「こどもの生活と環境Ⅰ」での学習を踏まえ、身近な環境を通して実践的に学習する。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの生活や経験に結びついた保育の展開を考えることができる。</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身近な環境に親しむ①自然とふれあう 動植物、土、砂、風、水、光</li> <li>2. 身近な環境に親しむ②自然とふれあう //</li> <li>3. 身近な環境に親しむ③自然とふれあう 自然事象、季節</li> <li>4. 身近な環境に親しむ④自然とふれあう フィールドビンゴ</li> <li>5. 身近な環境に関わる①聞く、見る、触れる、嗅ぐ、味わう</li> <li>6. 身近な環境に関わる② //</li> <li>7. 身近な環境に関わる③簡単な標識、文字</li> <li>8. 身近な環境に関わる④数量、図形</li> <li>9. 身近な環境に関わる⑤科学あそび</li> <li>10. 身近なものを大切にする①廃材を利用したおもちゃづくり</li> <li>11. 身近なものを大切にする② //</li> <li>12. 身近なものを大切にする③ //</li> <li>13. 指導案作成①</li> <li>14. 指導案作成②</li> <li>15. 発表</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所保育指針</li> <li>・ 保育内容「環境」あなたならどうしますか？ 萌文書林</li> <li>・ 「事例で学ぶ保育内容 環境」萌文書林</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題、発表</li> <li>・ 出席状況、授業態度</li> </ul>		

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)		授業の種類		授業担当者	当該科目に関する実務経験
こどもの生活と健康		( 講義・ <b>演習</b> ・ 実習 )		柳田 真理子	保育士
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択		
15回	30時間 (1単位)	2年・前期	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>こどもの健康に関わる生活 (運動、生活習慣、食行動等) の影響について理解し、保育現場における指導力を養う。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>こどもの健康を促進する側に立ったとき、こどもの生活と健康に関する現状把握とそれによる課題の特定は重要である。本講座では、こどもの生活と健康に関する理解を深め、それらの結びつきから健康の実現を促す諸要因の働きについて検討していく。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>こどもの健康に関わる課題を自ら発見し、その解決に主体的に取り組むことができる素養を身につける。</li> </ul>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>領域「健康」及び基本について</li> <li>乳幼児の発達と保育</li> <li>生活リズムと生活習慣</li> <li>安全と保健指導の在り方</li> <li>乳幼児の発達の見方・捉え方について</li> <li>乳幼期に培いたい「食を営む力」</li> <li>領域「健康」と保育方法</li> <li>運動意欲を育む指導とはについて</li> <li>健康や病気に関心を持つには</li> <li>生活の場を整えるとはについて</li> <li>保育環境の安全性について</li> <li>主なアレルギー疾患とその対応について</li> <li>食育の環境</li> <li>領域「健康」の変遷について</li> <li>期末試験</li> </ol>					
<p>[使用テキスト]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新・保育講座 保育内容「健康」(ミネルヴァ書房)</li> <li>保育所保育指針</li> </ul> <p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新潟市「保育計画」作成の手引き</li> <li>保育園における感染症対策ガイドライン</li> </ul>					
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> <li>到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> <li>事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>					

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  こどもの生活と言葉	授業の種類  ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者  柳田 真理子	当該科目に関する実務経験  保育士
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「言葉」の特性と「言葉」における保育者の役割の重要性を学び、保育内容「言葉」の意義を理解し、保育士に要される知識や留意、配慮すべき内容を習得する。</li> </ul> [授業全体の内容の概要] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳幼児が言葉を獲得する過程を理解し、発達段階を踏まえた保育の内容やその指導の実践。</li> <li>・ 「こどもの生活と言葉」の授業を通し、保育所保育指針の5つの領域の保育内容が「養護と教育」とが関連し合い、総合的に展開することを深く理解する。</li> </ul> [授業終了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもが生活や遊びにおいて様々な体験を通し総合的に育っていくことを学び、保育の実践の中での「言葉」の指導、配慮、留意点など専門性を習得する。</li> <li>・ 「生きる力」の基礎とも言える「言葉」の獲得や発達過程の他、保育士として、「人間と言葉」についての専門的な知識や理解を習得する。</li> </ul>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1、 保育内容「言葉」～こどもと言葉を育む保育士に～ 2、 保育内容「領域：言葉」について～内容やねらいを学ぶ～ 3、 子どもの言葉の発達～めばえから表現ができるようになるまで～ 4、 子どもの言葉と環境～保育者として言葉を育む環境づくり～ 5、 言葉を育む保育者の関わり ①0～2歳児 基本姿勢 6、 言葉を育む保育者の関わり ②3～6歳児 言葉の育ちの連続性 7、 言葉の発達が気になる子ども～保育者としての配慮・指導・支援 8、 保育者の言葉～言葉を育む保育者として～ 9、 児童文化とは 児童文化財①「絵本」：1 10、 児童文化財①「絵本」：2 11、 児童文化財②「素話・紙芝居・言葉遊び・伝承遊び・詩の世界」 12、 児童文化財③「ペープサート・パネルシアター・エプロンシアター・人形劇」 13、「言葉」の指導計画の作成～事例から学ぶ～ 14、 言葉と国語教育～小学校教育へ～ 15、 期末試験			
[使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業テキスト：「保育者をめざす人の保育内容「言葉」 (駒井 道子 編)</li> <li>・ 参考テキスト：「保育内容・言葉」(岸井 勇雄・武藤 隆・柴崎 正行 監修)</li> <li>・ 参考テキスト：「にほんご」：(松居 直 著)</li> </ul>			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点(75%)                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点(25%)                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  こどもの生活と人間関係	授業の種類  ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者  柳田 真理子	当該科目に関する実務経験  保育士
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育内容「人間関係」について、その内容と具体的な指導法を理解する。子どもの目線に立った人間関係の構築とその指導法を習得する。それらを通して、保育現場における洞察力・課題発見能力、更には自己の人間関係形成力を高めることを目指す。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園生活における様々な乳幼児の人間関係に関する知識を学び、保育内容「人間関係」のねらい・内容について理解する。併せて、具体的な保育実践事例を通して、保育者の実践的な援助の在り方について理解を深める。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所保育指針における「人間関係」のねらい・内容を理解する。</li> <li>・ 乳幼児の様々な「人間関係」の育ちや芽生えについて、発達の観点から総合的に理解する。</li> <li>・ 乳幼児の人間関係に関する保育事例を通して、保育者としての具体的・実践的な援助方法について考察できる力を身に付ける。</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1章 保育内容「人間関係」に求められること</li> <li>2. ①子どもとかかわりながら「育てる人」へと転換する ②現在の保育の枠組みから考えよう ③子どもの世界を感じよう</li> <li>3. ④保育者としての感覚を磨こう ⑤豊かな保育の現場を思い描こう</li> <li>4. 第2章 生涯にわたる「人間関係」 ①生涯を通した「人間関係」の原理とその発達 ②乳幼児期の「人間関係」 ③人間関係の発達を支える心理劇</li> <li>5. 第3章「人間関係」演習ーあなたならどうしますかー ①仲間入りを巡る人とかかわり ②人との信頼関係</li> <li>6. ③けんかやいざこざから生まれるもの</li> <li>7. ④片づけと人間関係</li> <li>8. ⑤遊びと人とのつながり</li> <li>9. ⑥言葉がつなげる人間関係</li> <li>10. ⑦気になる子どもと他児とのつながり</li> <li>11. ⑧保護者支援と保育者の役割</li> <li>12. ⑨地域・関係機関との連携</li> <li>13. ⑩園内の人間関係と保育者の自分磨き</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 期末試験</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育内容 人間関係 (萌文書林)</li> <li>・ 最新保育講座 8 保育内容「人間関係」(ミネルヴァ書房)</li> </ul>			
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  こどもの生活と表現 I	授業の種類  ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者  神林 美保子	当該科目に関する実務経験  保育士
授業の回数  15 回	時間数 (単位数)  30 時間 (1 単位)	配当学年・時期  1 年・後期	必修・選択  必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの生活と表現 I での学びを踏まえ、現場での保育を見据えた演習を通して表現活動を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの表現活動の援助・指導について学ぶ。幼児の表現活動の特徴について理解し、幼児の活動を援助する為に必要な基礎技術を身につける。また学生自身が表現遊びの計画・実践・評価ができるような参加型の授業として進める。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの表現活動は生活と密接な関係があり、保育の現場において、表現することの喜びや表現を楽しむ「態度」を培うことの大切さを知る。</li> <li>・ 子どもの表現活動における理論と実践について触れ、保育の現場での指導に役立つ技術を習得する。</li> <li>・ 自分自身が、体で様々なことを感じたり、考えたり、表したり、他者との関わりのプロセスを楽しみながら多様な活動を通して表現力を高める。</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. オペレッタ導入 (オペレッタの視聴、グループ分け、役決め等)</li> <li>3. オペレッタの準備①</li> <li>4. オペレッタの準備②</li> <li>5. オペレッタの練習③</li> <li>6. オペレッタの練習④</li> <li>7. オペレッタの練習⑤</li> <li>8. オペレッタ・リハーサル</li> <li>9. 各グループによる改善練習</li> <li>10. オペレッタ実技、発表、まとめ</li> <li>11. 手話ソングについて知る、歌の指導方法を学ぶ</li> <li>12. グループ分け、練習</li> <li>13. 手話ソングの練習</li> <li>14. ミニ発表会</li> <li>15. 期末試験</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現の指導法 (玉川大学出版部)</li> </ul>			
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点 (75%)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点 (25%)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  こどもの生活と表現Ⅱ	授業の種類  ( 講義・ <b>演習</b> ・ 実習 )	授業担当者  神林 美保子	当該科目に関する実務経験  保育士
授業の回数  15回	時間数 (単位数)  30時間 (1単位)	配当学年・時期  2年・前期	必修・選択  必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 保育所保育指針の保育の内容「表現」について理解し、演習を通して保育現場における実践力を育む。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 保育所保育指針の保育の内容「表現」について学習した後、演習を行う。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 保育の内容「表現」の内容とねらいを理解する。</li> <li>• 保育現場における実践力を身につける。</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育の基本 保育の内容「表現」とは</li> <li>2. 乳幼児期の発達と表現</li> <li>3. 保育のなかの表現を支える環境づくり</li> <li>4. 生活の中にあるものを表現として味わう</li> <li>5. 美しさを経験し、美しさを表現する</li> <li>6. コミュニケーションとしての表現</li> <li>7. 保育者支える表現</li> <li>8. 表現をつくり出す</li> <li>9. 幼児教育の現代的課題と領域「表現」</li> <li>10. 演習①小麦粉粘土</li> <li>11. 演習②季節の歌 (春・夏)</li> <li>12. 演習③季節の歌 (秋・冬)</li> <li>13. 演習④わらべうた・あそびうた</li> <li>14. 演習⑤手遊び</li> <li>15. 期末試験</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• たのしく遊べるこどものうた 改訂版(すずき出版)</li> <li>• 手あそび百科 (ひかりのくに)</li> <li>• 表現の指導法 (玉川大学出版部)</li> </ul> <p>《参考文献》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ことばと表現力を育む児童文化 (萌文書林)</li> </ul>			
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 考查点(75%)             <ul style="list-style-type: none"> <li>• 到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>• 平常点(25%)             <ul style="list-style-type: none"> <li>• 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>• 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>			

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)		授業の種類		授業担当者	当該科目に関する実務経験
こどもの生活と表現Ⅲ		( 講義・ <b>演習</b> ・ 実習 )		柳田 真理子	保育士
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択		
15回	30時間 (1単位)	2年・後期	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>領域「表現」における造形表現活動の構造と教育的意義を明らかにするとともに、子どもの成長発達と造形活動の基礎的知識、技術の習得を目指す。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの造形表現活動の援助・指導について学ぶ。幼児の造形表現活動の特徴について理解し、幼児の活動を援助する為に必要な基礎技術を身につける。また学生自身が造形表現遊びの計画・実践・評価ができるような参加型の授業として進める。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>演習を通して、学生 (自分) 自身が造形表現遊びの楽しさを味わい、子どもの目線に立った保育の展開を考えることができる。</li> </ul>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>1 表現教育の意義と造形表現 造形表現の基礎知識 (乳幼児期における一般的発達特性)</p> <p>2～7 年齢別で作る</p> <p>①季節の壁面製作 ・デカルコマニー ・フロッタージュ ・スクラッチ ・ステンシル ・シャボン玉アート等、様々な技法を使って</p> <p>②季節の折り紙製作</p> <p>③行事に使う製作</p> <p>8～12 様々な道具・素材を使って</p> <p>13 廃材を使って 段ボール迷路やお家、乗り物等</p> <p>14 卒園製作 計画・準備</p> <p>15 期末試験 (卒園製作 評価)</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『保育・幼児教育シリーズ表現の指導法』(玉川大学出版部)</li> <li>他、必要に応じ、プリント配布</li> </ul>					
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点 (75%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、実技試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点 (25%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>					

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業タイトル (科目名) こどもの保健		授業の種類 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・演習・実習 )		授業担当者	当該科目に関する実務経験
				柳田 真理子	保育士
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・前期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの心身両面の健康増進を図ることの意義を理解し、子どもの身体発育や生理機能の特性・発達、子どもの健康状態と、その把握、疾病とその予防・対応等、保育における保健的対応に必要な基礎的事項を学習する。</li> </ul> <p>[授業の全体の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの心身の健康と保健の意義、子どもの身体発育、子どもの疾病とその予防及び適切な対応等専門知識に基づいた保育実践に要する知識を習得する。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到着目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。</li> <li>2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。</li> <li>3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。</li> <li>4. こどもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。</li> </ol>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの保健を学ぶ</li> <li>2. 身体の成長</li> <li>3. 子どもの発達</li> <li>4. 子どもの栄養</li> <li>5. 生活と健康</li> <li>6. 子どもの事故とその予防</li> <li>7. 遺伝と健康</li> <li>8. 子どもの症候</li> <li>9. 感染症</li> <li>10. 予防接種</li> <li>11. 免疫・アレルギーと健康</li> <li>12. 子どもの重要な病気</li> <li>13. 子どもの心と健康</li> <li>14. 地域との関わり</li> <li>15. 期末試験</li> </ol>					
<p>[使用テキスト]</p> <p style="padding-left: 20px;">子どもの保健 改訂第3版 (渡辺博 編著/中山書店)</p> <p>[参考文献]</p> <p style="padding-left: 20px;">子どもの保健演習 改訂第2版 (大西文子 編集/中山書店)</p>					
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点 (75%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点 (25%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>					

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  こどもの理解と援助	授業の種類  (講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者  柳田真理子	当該科目に関する実務経験  保育士
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの心身の発達と保育実践、経験や学習過程の理解、保育における発達援助、子どもの理解に基づく保育実践の中での援助の具体的な方法など習得する。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの理解に要する、観察・記録・省察・評価等を通じた子どもの発達や内面等に関する実態把握とそれに基づく援助について、実践力を習得する。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実践において、実態に応じた子ども個々の心身の発達や学びを把握することの意義を理解する。</li> <li>・子どもの体験や学びの過程におき、子どもを理解する上での基本的な考え方や具体的な方法を理解する。</li> <li>・子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1章 保育の基本と子ども理解</li> <li>2. 第2章 子どもの発達する姿をとらえる①</li> <li>3. 第2章 子どもの発達する姿をとらえる②</li> <li>4. 第3章 子どもを理解するための保育者の援助①</li> <li>5. 第3章 子どもを理解するための保育者の援助②</li> <li>6. 第4章 子ども理解の方法①</li> <li>7. 第4章 子ども理解の方法②</li> <li>8. 第5章 子ども理解にもとづく保育者の援助①</li> <li>9. 第5章 子ども理解にもとづく保育者の援助②</li> <li>10. 第6章 子ども理解と評価①</li> <li>11. 第6章 子ども理解と評価②</li> <li>12. 第7章 子育て支援と保育相談①</li> <li>13. 第7章 子育て支援と保育相談②</li> <li>14. 模擬試験</li> <li>15. 期末試験</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新基本保育シリーズ こども理解と援助 中央法規出版</li> </ul>			
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・査点(75%)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。</li> </ul> </li> <li>・平常点(25%)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  子ども家庭支援の心理学	授業の種類  (講義・演習・実習)	授業担当者  中山 知子	当該科目に関する実務経験  幼稚園教諭 幼稚園園長
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期に保育・教育を担う保育者となるために、その専門性を深め、確かな裏付けをもって責任ある保育を実践するために必要な知識を学ぶ。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯発達と初期経験の重要性、家族・家庭の定義と機能、現代社会における子育て家庭の現状と課題の理解とその援助に必要な知識を習得する。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。</li> <li>・家族・家庭の定義や機能を理解し、家族関係や親子関係をどのように支援していくのかを考えることができる。</li> <li>・子育て家庭の現状と課題について理解し、保育者としての態度やかかわり方を理解する。</li> <li>・子どもの精神保健と専門機関との連携について知識を得て保育者としての対応を考えることができる。</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児の発達 生まれてから2歳の初期発達の特徴と、必要な保育者のかかわりについて理解する。</li> <li>2. 幼児期の発達 生涯発達における幼児期の発達の特徴を理解する。</li> <li>3. 学童期の発達 学童期の発達の特徴と幼児期からつながる発達のプロセスと課題を学ぶ。</li> <li>4. 青年期の発達 青年期の身体的発達、認知発達、対人関係の変化、問題行動について学ぶ。</li> <li>5. 成人期・中年期・高齢期の発達 生涯にわたる発達のうち後期となる時期の特性を理解する。</li> <li>6. 家族・家庭の意義と機能 家族や家庭の概念、意義と機能について学ぶ。</li> <li>7. 家族関係・親子関係の理解 家族に関する基本的な理解、家族ライフサイクル論、家族システム論を学ぶ。</li> <li>8. 子育て経験と親としての育ち 親が子育てで経験し育つこと、家庭と連携した保育の展開について学ぶ。</li> <li>9. 子育てを取り巻く社会的状況 少子化や核家族化、多様な家族等、日本の子育てをめぐる状況を理解する。</li> <li>10. ライフコースと仕事・子育て ライフコースの概念と歴史の変遷について学び、親理解や親支援につなげる。</li> <li>11. 多様な家庭とその理解 近年多様化する家庭や家族の関係について学び、具体的な支援について考える。</li> <li>12. 特別な配慮を要する家庭 子どもと家庭を支援するために、その背景となる特別な状況を理解する。</li> <li>13. 子どもの生活・生育環境とその影響 現代社会には特殊な環境で育つ子どもがいることを知り、課題を学ぶ。</li> <li>14. 子どもの心の健康にかかわる問題 子どもの問題行動やサインについて、連携する専門機関について学ぶ。</li> <li>15. 期末試験</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新基本保育シリーズ9 「子ども家庭支援の心理学」(中央法規出版)</li> <li>・保育所保育指針(厚生労働省/フレーベル館)</li> </ul>			
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>・平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  こども家庭支援論	授業の種類  ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )	授業担当者  星 恵美子	当該科目に関する実務経験  障がい児児童施設相談員・養護学校教員・放課後ディサービス児童発達管理者
授業の回数  15回	時間数 (単位数)  30時間 (2単位)	配当学年・時期  1年・前期	必修・選択  必修
[授業の目的・ねらい] 1. 子ども家庭支援の意義と原則について理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解をする。  [授業全体の内容の概要] ・ 保育士による子育て家庭の支援に必要な知識の基礎的理解を促進する。 ・ 子ども家庭福祉の基本事項として、意義や役割、保育士としての基本姿勢、支援体制や内容等を習得する。  [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・ 子ども家庭支援論の理論と知識を学び、支援の充実を図るに要する理解と専門性を習得する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 子ども家庭支援の意義と役割① 家庭の意義、役割、機能 2. 子ども家庭支援の意義と役割② 家庭支援の必要性 3. 子ども家庭支援の意義と役割③ 保育者が行う家庭支援の原理 4. 家庭生活を取り巻く社会的状況① 現代家庭の子育てとコミュニケーション 地域社会の変容と家庭支援 5. 家庭生活を取り巻く社会的状況② 男女共同参画社会とワークライフバランス 6. 子育て家庭の支援体制① 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 7. 子育て家庭の支援体制② 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 8. 多様な支援の展開① 保育所入所児童の家庭への支援 9. 多様な支援の展開② 地域の子育て家庭への支援 10. 多様な支援の展開③ 特別な配慮を必要とする子どもと家庭への支援 11. 家庭支援における関係機関との連携① 国、地方公共団体の機関 12. 家庭支援における関係機関との連携② 民間機関 13. 子育て家庭支援の課題と展望① 子育て中の親支援サービスの課題 14. 子育て家庭支援の課題と展望② 子育て中の親子関係性支援サービスの課題 15. 期末試験			
[使用テキスト・参考文献] ・新基本保育シリーズ こども家庭支援論 中央法規出版			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  こども家庭福祉	授業の種類  ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )	授業担当者  星 恵美子	当該科目に関する実務経験  障がい児児童施設相談員・養護学校教員・放課後ディサービス児童発達管理者
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。 [授業全体の内容の概要] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現代社会におけるこども家庭福祉の意義・役割等を明らかにする。</li> <li>・ 保護者と連携した「子どもの育ちの支援」のため、子ども家庭福祉の知識と現状・課題等を深く理解する。</li> </ul> [授業終了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ こども家庭福祉の意義・役割等についての理解を深めることができる。</li> <li>・ 保護者と連携した「子どもの育ちの支援」に要する知識と専門性を習得する。</li> </ul>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 子どもと家庭を取り巻く今日の状況 (少子化、貧困、児童虐待、DV) 2. 子ども家庭福祉とは (子どもとは何か、子ども家庭福祉の考え方、子どもの権利) 3. 子ども家庭福祉のあゆみとこれからの課題 4. 子ども家庭福祉に関する法制度と実施機関 5. 保育サービスと地域子育て支援 6. 母子の健康と子育て支援サービス 7. 障がいのある子どもへの福祉サービス 8. 子どもの健全育成とは 9. 社会的養護とは何か 10. 少年非行 11. ひとり親家庭への支援 12. 外国籍の子どもへの支援 13. 学校での子どもたちへの支援 14. 保育現場における子ども家庭福祉相談援助活動 15. 期末試験			
[使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新保育基本シリーズ こども家庭福祉 中央法規出版</li> </ul>			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点(75%)                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点(25%)                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  スポーツ実技	授業の種類  ( 講義・ 演習・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">実技</span> )	授業担当者  北 進司	当該科目に関する実務経験  高等学校教員																														
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・前期後期	必修・選択 必修																														
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の必要性を理解する。</li> <li>・体を動かすことの楽しさや心地よさを味わう。</li> <li>・リズム運動等を通じ、豊かな感性を育て、感じた事・考えた事を表現する力を養う。</li> <li>・生涯にわたって自らの健康や体力を維持していくために必要な知識・技術を学ぶ。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯スポーツのきっかけとなるような様々なスポーツを体験する。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯スポーツとして、日々の生活の中で実践できるようになる。</li> </ul>																																	
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 5%; text-align: center;">1</td><td style="padding-left: 20px;">オリエンテーション、体操、体力測定 (握力・長座体前屈・反復横跳び等)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">2</td><td style="padding-left: 20px;">体操、縄跳び、ウォーキング、ランニング等</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">3</td><td style="text-align: center;">↓</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">4</td><td style="text-align: center;">↓</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">5</td><td style="text-align: center;">↓</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">6</td><td style="text-align: center;">↓</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">7</td><td style="padding-left: 20px;">球技</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">8</td><td style="padding-left: 20px;">球技</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">9</td><td style="padding-left: 20px;">球技</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">10</td><td style="padding-left: 20px;">球技</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">11</td><td style="padding-left: 40px;">リズム運動・表現あそび</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">12</td><td style="text-align: center;">↓</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">13</td><td style="text-align: center;">↓</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">14</td><td style="text-align: center;">↓</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">15</td><td style="padding-left: 40px;">実技テスト</td></tr> </table> <p>※ 上記、授業内容は予定であり、天候、場所の状況に配慮し行う。</p>				1	オリエンテーション、体操、体力測定 (握力・長座体前屈・反復横跳び等)	2	体操、縄跳び、ウォーキング、ランニング等	3	↓	4	↓	5	↓	6	↓	7	球技	8	球技	9	球技	10	球技	11	リズム運動・表現あそび	12	↓	13	↓	14	↓	15	実技テスト
1	オリエンテーション、体操、体力測定 (握力・長座体前屈・反復横跳び等)																																
2	体操、縄跳び、ウォーキング、ランニング等																																
3	↓																																
4	↓																																
5	↓																																
6	↓																																
7	球技																																
8	球技																																
9	球技																																
10	球技																																
11	リズム運動・表現あそび																																
12	↓																																
13	↓																																
14	↓																																
15	実技テスト																																
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>適宜、プリントなど資料配布</p>																																	
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が80%以上の者に対して、考查点・平常点などを考慮し評価する。</p>																																	





## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）  教育原理	授業の種類  ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実技 )	授業担当者  伊藤 晶	当該科目に関する実務経験  高等学校教員
授業の回数  15 回	時間数（単位数）  30 時間（1 単位）	配当学年・時期  1 年・後期	必修・選択  必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>教育という人間の営みの根源に焦点を当てながら、古来から現在までの教育に対する取り組みを概観していく。現在の学校教育制度の成り立ちと変遷を確認しながら、すべての人の学ぶ権利の拡大と教師とは何か、学校とは何かについて学ぶことを目的とする。現在社会における学校を取り巻く環境の変化を理解しながら「教育問題」への取り組む視点を学んでいく。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人間活動における教育について説明できる</li> <li>・ 現在の教育に影響与えた教育思想について説明できる</li> <li>・ 日本の学校制度の変遷について説明できる</li> <li>・ だれもが受けることの教育のあり方について説明できる</li> <li>・ 現代の教育問題にはどのようなものがあるか指摘できる</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第 1 回 人間について思考する様式・人間形成の根源と価値</p> <p>第 2 回 臨床的な理解の方法</p> <p>第 3 回 教育思想の背景と系譜</p> <p>第 4 回 学校教育制度の変遷</p> <p>第 5 回 日本国憲法下の教育施策</p> <p>第 6 回 就学前のカリキュラム</p> <p>第 7 回 就学後のカリキュラム</p> <p>第 8 回 臨床的な教育の実践</p> <p>第 9 回 教師のキャリア形成</p> <p>第 10 回 社会の中の学校組織</p> <p>第 11 回 多文化と教育統治</p> <p>第 12 回 障害発達と教育機会</p> <p>第 13 回 学校教育の問題構成</p> <p>第 14 回 人間依存と近代社会</p> <p>第 15 回 期末試験</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>なぜからはじめる教育原理 [第 2 版] 建帛社</p>			
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点 (75%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点 (25%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 健康科学	授業の種類 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )	授業担当者 北 進 司	当該科目における実務経験 高等学校教員
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・ 生涯を通して、心身ともに健康な生活をおくるための知識を学ぶ。			
[授業全体の内容の概要] ・ ライフステージ各期のめざすべき健康な体力作りとその管理、維持、増進のための適切な運動、休養の意義を修得する。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ 生涯における健康への自己の認識を確立し、実践できるようになる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
1. 現代の健康問題外観 2. 人の心身と健康を知る      身体と健康、心と健康 3.                   "                    遺伝と健康 4.                   "                    適応と健康 5. 健康の基礎                    環境と健康、栄養と健康 6.                   "                    運動と健康－運動の効果、運動と健康－運動による傷害 7.                   "                    生活習慣と健康 8. 社会と健康                    社会と健康 9.                   "                    集団と健康 10.                  "                    経済と健康、法と健康 11. 科学技術と健康                化学物質と健康、情報技術の革新と健康 12.                  "                    交通・輸送の革新と健康 13.                  "                    住宅と健康 14. 健康観と健康に関する社会のしくみ 15. 定期テスト			
[使用テキスト・参考文献] ・ テキスト健康科学 改定第2版 (南江堂)		[単位認定の方法及び基準] ・ 授業態度 ・ 定期試験	
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が 80%以上の者に対して、考查点・平常点などを考慮し評価する。			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  子育て支援	授業の種類  ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者  柳田 真理子	当該科目における実務経験  保育士
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい]  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育て家庭への支援に関して総合的な力を養う。</li> </ul> [授業全体の内容の概要] 1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。 [授業終了時の達成課題(到達目標)]  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育の専門性を活かした子育て支援の方法を提案することができる。</li> </ul>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]  1. Lesson1 子育て支援とは 2. Lesson2 子育て支援の意義 3. Lesson3 子育て支援の基本的価値・倫理 4. Lesson4 子育て支援の基本的姿勢 5. Lesson5 子育て支援の基本的技術 6. Lesson6 園内・園外との連携と社会資源 7. Lesson7 記録・評価・研修 8. Lesson8 日常会話を活用した子育て支援 9. Lesson9 文書を利用した子育て支援 10. Lesson10 行事などを活用した子育て支援 11. Lesson11 環境を活用した子育て支援 12. Lesson12 地域子育て支援拠点における支援 13. Lesson13 入所施設における子育て支援 14. Lesson14 通所施設における子育て支援 15. Lesson15 まとめと今後の課題			
[使用テキスト・参考文献]  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育て支援 15のストーリーで学ぶワークブック (二宮裕子 著/萌文書林)</li> </ul>		[単位認定の方法及び基準]  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期試験</li> <li>・ 出席状況、授業態度、提出物評価及び小テストについても含めて評価する。</li> </ul>	

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  社会的養護 I	授業の種類 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )	授業担当者  星 恵美子	当該科目に関する実務経験  障がい児児童施設 相談員・養護学校 教員・放課後ディ サービス児童発達 管理者
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会的養護の基本理念を理解し、保育者としての役割を正しく認識する。</li> <li>・ 社会的養護における法体系と制度を把握し、適切な支援の在り方を考える。</li> </ul> [授業の概要] 保育の専門職者として、社会的養護問題における現状を知り、ニーズに応じた適切な支援をしていくための基礎的な知識を習得する。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会的養護の理念を始め、法体系や制度などに関する基礎的な知識を習得している。</li> <li>・ 社会的養護における保育者としての役割を正しく認識している。</li> <li>・ 現状の社会的養護問題に関心を持ち、適切な支援の在り方を見いだすことができる。</li> </ul>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. オリエンテーション、社会的養護とは 2. 社会的養護の歴史的変遷①～第二次世界大戦以前～ 3. 社会的養護の歴史的変遷②～第二次世界大戦以後～ 4. 子どもの権利 5. 社会的養護にかかわる法令 6. 社会的養護の実施体制と仕組み 7. 施設養護と家庭養護の特質と基本原則 8. 施設養護の実際①—乳児院・母子生活支援施設・児童養護施設 9. 施設養護の実際②—障害児入所施設・児童発達支援センター 10. 施設養護の実際③—児童心理治療施設・児童自立支援施設 11. 家庭養護の実際—里親・ファミリーホーム 12. 社会的養護における専門職・倫理 13. 施設の運営管理 14. 養護問題の現状と社会的養護の展望 15. 期末考査			
[使用テキスト] ・新基本保育シリーズ 社会的養護 I 中央法規出版			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考査点 (75%)</li> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。</li> <li>・ 平常点 (25%)</li> <li>・ 授業時に提示された課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul>			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  社会的養護Ⅱ	授業の種類  ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者  星 恵美子	当該科目に関する実務経験  障がい児児童施設相談員・養護学校教員・放課後ディサービス児童発達管理者
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会的養護Ⅰの内容を踏まえ、社会的養護を必とする児童及びその家庭への援助の在り方を授業と演習により理解する。</li> </ul> [授業全体の内容の概要] 1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 要保護児童への具体的援助及び社会的養護そのものの資質的向上に向けて、これからの支援がどのようにされるべきかについて、学生一人一人が自らの考えを持つことができるようになる。</li> </ul>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 施設養護の職員とは 2. 施設養護における基本的援助技術① 3. 施設養護における基本的援助技術② 4. 社会的養護の実際① 5. 社会的養護の実際② 6. 社会的養護の支援の計画と内容及び事例分析① 7. 社会的養護の支援の計画と内容及び事例分析② 8. 虐待問題と児童養護① 9. 虐待問題と児童養護② 10. 社会的養護の課題と展望 11. 施設養護の実践① 12. 施設養護の実践② 13. 施設養護の実践③ 14. 福祉施設実習に向けて 15. 期末試験			
[使用テキスト・参考文献] ・新基本保育シリーズ 社会的養護Ⅱ 中央法規出版			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点(75%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。</li> </ul> ・ 平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業時に提示された課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul>			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  社会福祉	授業の種類 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )	授業担当者  星 恵美子	当該科目に関する実務経験  障がい児児童施設相談員・養護学校教員 ・放課後ディサービス児童発達管理者
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・現代社会における社会福祉の意義を理解し、保育現場での支援・援助の在り方を学ぶ。			
[授業全体の内容の概要] 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・社会福祉に関する基本的知識を習得し、保育現場での支援・援助の実践力を身につける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 第1講 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷 2. 第2講 社会福祉の一分野としての児童家庭福祉 3. 第3講 児童の人権擁護と社会福祉 4. 第4講 家庭支援と社会福祉 5. 第5講 社会福祉の制度と法体系 6. 第6講 社会福祉行政と実施機関 7. 第7講 社会福祉施設等 8. 第8講 社会福祉の専門職・実施者 9. 第9講 社会保障および関連制度の概要 10. 第10講 相談援助の意義と原則 11. 第11講 相談援助の方法と技術 12. 第12講 社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ 13. 第13講 少子高齢化社会への対応 14. 第14講 地域福祉推進とネットワーク 15. 第15講 社会福祉の諸外国の動向			
[使用テキスト・参考文献] ・新基本保育シリーズ 社会福祉 中央法規出版			
[単位認定の方法及び基準] 以下の評価資料を総合的に判断して認定する ① 所定の出席率の充足 ② 小テストの得点率			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業タイトル (科目名)  障がい児に対する心理的支援	授業の種類  ( 講義 ・ <span style="border: 1px solid black;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者  板垣 寛	当該科目に関する 実務経験  臨床心理士 児童相談所相談員 児童発達支援センター 相談員
授業の回数  15 回	時間数 (単位数)  30 時間 (1 単位)	配当学年・時期  2 年・後期	必修・選択  必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>インクルーシブ保育において発達障害児や気になる子に対する保育上の配慮では、障害児の心理的側面に関する知識を持っていることは非常に重要である。この科目では、さまざまな障害に関する応用として、心理的側面を軸とした障害児への支援方法を学ぶことを目的とする。</p> <p>[授業の全体の概要]</p> <p>保育や教育の場面を例にとれば、障害をもった子どもの保育・教育には、その障害の特徴に合わせた特別な配慮が必要だということを意味している。この授業では、障害をいくつかの種類に分け、その特徴、原因を理解するとともに、障害をもつ子どもがどのような心理状態に陥りやすいかということ进行学习する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 特に発達障害児についての理解を深め、それぞれの障害を持つ子どもへの働きかけ (育児・保育・教育) のあり方について具体的に考えることができる。</li> <li>2) 障害児をもつ家庭への支援について深く理解し、自分がかかわるとしたら、どのような働きかけが適切であるかについて説明することができる。</li> <li>3) 「障害児」と「障害を持たない子ども」を区別することの意義について考察し、そのことが、障害児にとってプラスになるようにするには、どのような配慮 (条件) が必要であるかについての考えを述べるることができる。</li> </ol>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知的障害児の心理的特徴</li> <li>2. 知的障害児への具体的支援方法 (インリアル・アプローチ)</li> <li>3. 運動障害・肢体不自由児の心理的特徴</li> <li>4. 運動障害・肢体不自由児への具体的支援方法 (とけあい動作法、コミュニケーションループ)</li> <li>5. 学習障害児の心理的特徴 (二次障害)</li> <li>6. 学習障害児への具体的支援方法 (ひらがなカード、フィンガーペインティング)</li> <li>7. ADHD 児の心理的特徴 (二次障害)</li> <li>8. ADHD 児への具体的支援方法 (環境整備、人員配置、行動療法)</li> <li>9. 自閉症スペクトラム障害児の心理的特徴 (二次障害)</li> <li>10. 自閉症スペクトラム障害児への具体的支援方法 (パニック予防)</li> <li>11. 視覚障害・聴覚障害児の心理的特徴 (二次障害)</li> <li>12. 視覚障害・聴覚障害児への具体的支援方法 (点字・墨字、正眼児との協力)</li> <li>13. 障害児をもつ家庭への支援 (親子関係への心理的援助)</li> <li>14. 障害児をもつ家庭への支援 (ペアレント・トレーニング・慢性的悲嘆、過保護への支援)</li> <li>15. 期末試験</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アナログゲーム療育 ぶどう社</li> </ul>			
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点 (75%)           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点 (25%)           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  障がい児保育 I	授業の種類  ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者  板垣 寛	当該科目に関する 実務経験  臨床心理士 児童相談所相談員 児童発達支援センター 相談員
授業の回数  15 回	時間数 (単位数)  30 時間 (1 単位)	配当学年・時期  1 年・後期	必修・選択  必修
[授業の目的・ねらい] ・ 障がいのある子どもの保育に関して、対象となる子どもの理解を踏まえ、家庭と連携した援助の内容について理解する。 [授業全体の内容の概要] 1. 障がい児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障がい児及びその保育について理解する。 2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 3. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 4. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 5. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ 障がいのある子どもやその他の特別な配慮を要する子どもとその家庭への援助・支援について自分の考えを述べるができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 障がい児保育を支える理念 障がいの捉え方と障がい児保育の歴史 2. " 障がい児保育の基本 3. 障がいの理解と保育における発達の支援 肢体不自由児の理解と支援 4. " 視覚障がい・聴覚障がい児の理解と支援 5. " 知的障がい児の理解と支援 6. " 発達障がい児の理解と支援 (ADHD、LD 等) 7. " 発達障がい児の理解と支援 (PDD 等) 8. " 重症心身障がい児、医療的ケア児の理解と支援 9. " その他の特別な配慮を要する子どもの理解と支援 10. 障がい児保育の実際 障がい児保育を支える記録・評価 11. " 指導計画及び個別の支援計画の作成 12. " 子ども一人ひとりの発達をうながす生活と遊びの環境 13. " 子ども同士のかかわりと育ち合い 14. " 職員間の協働 15. 期末試験			
[使用テキスト・参考文献] ・ アクティブラーニング対応 エピソードから読み解く障害児保育 萌文書林			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 障がい児保育Ⅱ	授業の種類 ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者 板垣 寛	当該科目に関する実務経験 臨床心理士 児童相談所相談員 児童発達支援センター相談員
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・ 障がいのある子どもの保育に関して、対象となる子どもの理解を踏まえ、家庭と連携した援助の内容について理解する。 [授業全体の内容の概要] 1. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 2. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 3. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ 障がいのある子どもやその他の特別な配慮を要する子どもとその家庭への援助・支援について自分の考えを述べる事ができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 家庭や関係機関との連携 保護者や家族に対する理解と支援の方法 2. " 保護者間の交流や支え合いの意義とその支援 3. " 地域の専門機関との連携 4. " 子ども一人ひとりの支援計画の作成 5. " 小学校などとの連携 6. 障がいのある子どもの保育にかかわる現状と課題 保健・医療における現状と課題 7. " 福祉・教育における現状と課題 8. " 支援の場の広がりとなつがり 9. エピソードから読み解く 0 歳児の発達に見られる遅れ・偏り 10. " 1 歳児の発達に見られる遅れ・偏り 11. " 2 歳児の発達に見られる遅れ・偏り 12. " 3 歳児の発達に見られる遅れ・偏り 13. " 4 歳児の発達に見られる遅れ・偏り 14. " 5 歳児の発達に見られる遅れ・偏り 15. 期末試験			
[使用テキスト・参考文献] ・アクティブラーニング対応 エピソードから読み解く障害児保育 (尾野明美・小湊麻衣 著/萌文書林)			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  障がい児保育実践演習	授業の種類  ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者  板垣 寛	当該科目に関する 実務経験  臨床心理士 児童相談所相談員 児童発達支援センター 相談員
授業の回数  15回	時間数 (単位数)  30時間 (1単位)	配当学年・時期  2年・後期	必修・選択  必修
[授業の目的・ねらい] ・ 障がい児への理解をより深めるとともに、障がい児保育の支援・援助の具体的な知識を習得し、実践力を培う。 [授業全体の内容の概要] ・ 障がい児支援施設や児童発達支援センターなどの施設での観察を通して、実際の支援の在り方や様々な場面での支援の方法を考察・検討する。また、個別支援計画の具体的な作成方法を知り、現場での実践力をより高める。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ 個別支援計画が作成できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1～8. 児童発達支援施設等の観察 9. 観察の振り返り 10. 観察からの事例検討① 11. 観察からの事例検討② 12. 観察からの事例検討③ 13. 個別の支援計画作成① 14. 個別の支援計画作成② 15. 期末試験 ※観察する施設について 保育実習Ⅰ (施設)・Ⅲの承諾を頂いている施設に依頼する。			
[使用テキスト・参考文献] ・ はじめての療育 学研プラス			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル(科目名) 障がい福祉		授業の種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )		授業担当者	当該科目における実務 経験
				星 恵美子	障がい児児童施設相談 員・養護学校教員・放 課後ディサービス児童 発達管理者
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障がい福祉に関する法制度やサービスなどについて理解を深める。</li> <li>障がいのある子どもに対するアセスメントや支援についての理解を深める。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障がいの理念や法律について解説する。</li> <li>各障がいについて理解するとともに、障がいのある子どもの支援について学ぶ。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障がい福祉に関する法制度やサービスについて理解し、現状とその課題について考えることができる。</li> <li>障がいや障がいのある子どもについて理解を深め、生活実態を把握することができる。</li> <li>障がいのある子どもに対する支援について理解し、その実践について自身の考えを持つことができる。</li> </ul>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>“障がい”の捉え方</li> <li>障がい福祉の法制度とサービス</li> <li>障がい児保育の仕組み</li> <li>生活の中で障がい児をどう理解するか</li> <li>保育の中で障がい児とどう関わるか</li> <li>身体障がい児・者の心理的特性と理解</li> <li>知的障がい児・者の心理的特性と理解</li> <li>発達障がいとは</li> <li>ASD(自閉症スペクトラム)の理解と支援</li> <li>ADHD(注意欠如多動性障がい)の理解と支援</li> <li>LD(学習障がい)の理解と支援</li> <li>アセスメントから子どもの実態を学ぶ</li> <li>小学校との連携</li> <li>障がい者の社会参加への援助</li> <li>定期試験</li> </ol>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障害児保育 子どもとともに成長する保育者を目指して 萌文書林</li> <li>適宜プリントを配布</li> </ul>					
<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出席状況、授業態度</li> <li>定期試験</li> </ul>					



# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  情報 I	授業の種類  ( 講義・演習・実習 )	授業担当者  織田島 順子	当該科目に関する 実務経験
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 1 入力操作に慣れる 2 ワードプロソフト「Word」が扱える [授業全体の内容の概要] 機能面の説明から始め、Wordを使った簡単なビジネス文書を作成し、初心者でも、扱いに慣れるようにする。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] 1 パソコンの基本的な操作方法を理解する。 2 入力速度を向上させる。 3 Wordによるビジネス文書が作成できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1 実習室の利用方法・パソコン起動の説明 2 タイピングの簡単な説明 I (キーボードの配置の説明他) 3 タイピングの簡単な説明 II (タッチタイピングの基本) 4 タイピングの簡単な説明 III (入力速度練習) 5 // 6 Wordの機能名称説明、Wordを使ったビジネス文書の作成 I (ヘッダー入力他) 7 Wordを使ったビジネス文書の作成 II (フォント、段落の設定) 8 Wordを使ったビジネス文書の作成 III (インデント他の設定) 9 Wordを使ったビジネス文書の作成 IV (自力作成の練習) 10 Wordを使ったビジネス文書の作成 V (自力作成の練習) 11 Wordを使った複雑な文書の作成 (やや複雑なレイアウトのお便り作成) 12 // 13 // 14 // 15 期末試験			
[使用テキスト・参考文献] ・保育者のためのパソコン講座 (萌文書林)			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・考查点 (75%) ・到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末考查を実施する。 ・平常点 (25%) ・事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  情報Ⅱ	授業の種類  ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者  織田島 順子	当該科目に関する 実務経験
授業の回数  15回	時間数 (単位数)  30時間 (1単位)	配当学年・時期  1年・後期	必修・選択  必修
[授業の目的・ねらい] 1 Excelを使って目的に応じた表計算ファイルやグラフの作成。 2 Powerpointによるプレゼンテーションを行う。 授業全体の内容の概要] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機能面の説明から始め、関数の利用や、作成に便利な相対参照・絶対参照の説明、インポート・エクスポートの仕方を含めた活用術を全般的に習得し、Excelの初心者でも、扱いに慣れるようにする。</li> <li>・ Powerpointを使ってアニメーションなどを効果的に使ったプレゼンテーションの仕方を学ぶ。</li> </ul> [授業終了時の達成課題 (到達目標)] <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Excelの操作になれる。効果的に使える。</li> <li>2 Powerpointを使ってプレゼンテーションが行うことができる。</li> </ol>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Excelの機能名称説明</li> <li>2 Excelを使った表の作成Ⅰ (セルの書式設定他)</li> <li>3 Excelを使った表の作成Ⅱ (関数の説明と利用)</li> <li>4 Excelを使った表の作成Ⅲ (関数の説明と利用 続き、相対参照と絶対参照)</li> <li>5 Excelを使った表の作成Ⅳ (グラフの作成)</li> <li>6 Excelを使った表の作成Ⅴ (グラフの作成 続き)</li> <li>7 Powerpointの機能説明</li> <li>8 Powerpointによる図形作成Ⅰ (図形の挿入他)</li> <li>9 Powerpointによる図形作成Ⅱ (図形の書式設定他)</li> <li>10 Powerpointによる図形作成Ⅲ (図形のグループ化、挿入位置、回転他)</li> <li>11 Powerpointによるファイル作成Ⅰ (スライドの設定)</li> <li>12 Powerpointによるファイル作成Ⅱ (テキストボックスの書式設定他)</li> <li>13 Powerpointによるファイル作成Ⅲ (アニメーションの作り方)</li> <li>14 Powerpointによるプレゼンテーション (各自のファイルで発表)</li> <li>15 期末試験</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献] ・ 保育者のためのパソコン講座 (萌文書林)			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末考查を実施する。</li> </ul> ・ 平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul>			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  生涯発達心理学	授業の種類  ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )	授 業 担 当 者  板 垣 寛	当該科目に関する 実務経験  臨床心理士 児童相談所相談員 児童発達支援センター 相談員
授業の回数  15 回	時間数 (単位数)  30 時間 (2 単位)	配当学年・時期  1 年・後期	必修・選択  必修
[授業の目的・ねらい] 受精から死を迎えるまで、人間は発達し続けるという概念を持ち、各発達段階における心身の標準発達から発達課題とそれを乗り越えるための術について学ぶ。			
[授業全体の内容の概要] 「発達」が子どもだけのものではなく、生涯を通してあり続けるものであり、量的な発達と質的な発達の両方について実験や事例を用いながら検討していく。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 1) 「生涯発達」の意味を理解し、自分の発達の経過を具体的に振り返ることができる。 2) 「発達」は上昇的变化と下降的变化として説明されることを理解し、自分が経験してきた変化について具体的にとらえることができる。 3) 発達をもたらす要因は何であるかについて理解し、教育や保育、あるいは育児において、具体的な働きかけのあり方について考えることができる。 4) 「発達は積み重ねである」ということについて、「発達課題」という視点から具体的に説明することができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 発達とは 発達概念の変遷 2. 発達の指標とメカニズムの理解 発達段階と発達課題 (エリクソン、ハヴィガースト、フロイト等による) 発達の規定因について 3. 胎児～新生児～乳幼児期の発達の理解 母子関係、反射から随意運動へ 4. 乳幼児期の発達の理解 認知、言語の発達と第一反抗期へ 5. 児童期の発達の理解① 小1プロブレム、人間関係の推移 (家族から仲間へ) 6. 児童期の発達の理解② 道徳、社会性、向社会性の発達、ギャングエイジについて 7. 思春期の発達の理解 思春期とは何か、第二次性徴に連動した心の発達 8. 青年期の発達の理解① アイデンティティ各種に関する理解 自立と自律について 9. 青年期の発達の理解② 職業選択、自己意識について 10. 成人期の発達の理解① 「親密性対孤立」、職業生活へのコミットメントについて 11. 成人期の発達の理解② 「生殖性対停滞」、空の巣症候群等のミドルエイジの危機 12. 高齢期の発達の理解① 「統合対絶望」、サクセスフルエイジングについて 13. 高齢期の発達の理解② 認知症と家族の心理、ケアについて 14. 発達における幼稚園・保育所の役割の理解 声掛け、観察等のポイントについて 15. 期末試験			
[使用テキスト・参考文献] ・発達の理解と保育の課題 同文書院			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 査点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末査点を実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			



# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  創作活動	授業の種類  ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者  神林美保子	当該科目に関する実務経験  保育士
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製作活動で用いられる様々な技法や牛乳パックなどの廃材を利用したおもちゃの製作方法、年齢に合った製作活動の進め方や配慮のポイントなどを知り、現場での実践的な能力を培う。</li> </ul>			
[授業全体の内容の概要] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な技法を使い、製作活動を楽しむ。</li> <li>・ 牛乳パックや空き箱などの廃材を利用したおもちゃの製作をする。</li> </ul>			
[授業終了時の達成課題 (到達目標) ] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 習得した技法や製作方法を基に指導案を作成する。</li> </ul>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. バチック (はじき絵) 2. マーブリング 3. 泡うつし 4. ビー玉ころがし 5. デカルコマニー 6. 糸ひき絵／糸まき絵 7. 紙版画① 8. 紙版画② 9. 廃材を使った製作① 10. 廃材を使った製作② 11. 年賀状作成 12. お正月遊び (凧) 13. 卒園式のコサージュ作り 14. 指導案作成 15. 期末試験			
[使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適宜プリントを配布する</li> </ul>			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点 (75%)                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点 (25%)                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>			



# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  乳児の発達と保育 I	授業の種類  ( 講義 )・演習・実習 )	授業担当者  青田 由美子	当該科目に関する実務経験  保育士
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳児保育の理念や現状、体制などの理解を深め、保育の方法や環境の構成等を学ぶ。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。</li> <li>2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。</li> <li>3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。</li> <li>4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。</li> </ol> <p>※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳児保育の実践力を習得する。</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児の保育の記録と計画</li> <li>2. 保育の計画①</li> <li>3. 保育の計画②</li> <li>4. 指導計画の作成における留意点と作成の実践</li> <li>5. 乳児保育と子どもの発達・親の発達①</li> <li>6. 乳児保育と子どもの発達・親の発達②</li> <li>7. 乳児保育における保育士のあり方①</li> <li>8. 乳児保育における保育士のあり方②</li> <li>9. 乳児保育のあゆみ①</li> <li>10. 乳児保育のあゆみ②</li> <li>11. 保育所機能の多様化と一般化</li> <li>12. 乳児保育の多様化するニーズ</li> <li>13. 乳児保育の現状と課題①</li> <li>14. 乳児保育の現状と課題②</li> <li>15. 期末試験</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳児保育 I・II 養成校と保育室をつなぐ理論と実践 <span style="float: right;">萌文書林</span></li> </ul>			
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点 (75%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点 (25%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)	授業の種類	授業担当者	当該科目に関する実務経験
乳児の発達と保育Ⅱ	( 講義・演習・実習 )	青田 由美子	保育士
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳児保育Ⅰの内容を踏まえ、より具体的な乳児保育の方法や環境の構成等を学ぶ。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。</li> <li>2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。</li> <li>3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。</li> <li>4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。</li> </ol> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳児保育の実践力を習得する。</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児の発達と保育</li> <li>2. 0・1・2歳児の発達の特徴と保育の中での留意点    0歳児保育において</li> <li>3. 0・1・2歳児の発達の特徴と保育の中での留意点    1歳児保育において</li> <li>4. 0・1・2歳児の発達の特徴と保育の中での留意点    2歳児3歳代保育において</li> <li>5. 乳児の発達を見つめる視点</li> <li>6. 乳児保育の内容と方法</li> <li>7. 保育園での基本的生活</li> <li>8. 基本的生活の内容と方法①</li> <li>9. 基本的生活の内容と方法②</li> <li>10. 基本的生活の内容と方法③</li> <li>11. 基本的生活の内容と方法④</li> <li>12. 特別な配慮を必要とする子ども</li> <li>13. 乳児保育の内容と方法</li> <li>14. あそび文化</li> <li>15. 期末試験</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳児保育Ⅰ・Ⅱ養成校と保育室をつなぐ理論と実践                      萌文書林</li> </ul>			
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

科目名 文章の理解と表現		授業の種類 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )		授業担当者 神林 美保子	当該科目に関する実務経験
授業回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 文章作成に関する表記、用字上の基礎的な知識の習得</li> <li>2 工作上必要な報告書・社外文書等、各種文書作成のための基礎的な知識の習得</li> </ol> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育士が職務上必要とされる文書作成について、主に敬語の表現、実習日誌・指導計画は書き方の留意点、手紙・社外のビジネス文書作成、履歴書の作成、作文・小論文・提出レポートの作成を中心に、書き方のルールを理解し、「何を」、「どのように」書いていくかの技術を身につけ、主体的に作成することができる。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 敬語が適切に使える。</li> <li>2 実習日誌・指導計画の書き方の留意点を把握する</li> <li>3 手紙・社外文書の基本を理解し、簡単な当該文書を作成できる</li> <li>4 履歴書の作成の基礎知識を知る</li> <li>5 作文・小論文・提出レポートを作成できる</li> </ol>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 敬語Ⅰ(丁寧語・尊敬語)</li> <li>2. 敬語Ⅱ(謙譲語、誤った敬語の使い方)</li> <li>3. 実習日誌・指導計画の書き方の留意点Ⅰ(テキストp80～82)</li> <li>4. 実習日誌・指導計画の書き方の留意点Ⅱ(テキストp92を中心に)</li> <li>5. 手紙用語</li> <li>6. 手紙・社外文書の書き方Ⅰ(書き方・レイアウト)</li> <li>7. 手紙・社外文書の書き方Ⅱ(作成演習)</li> <li>8. 履歴書の作成Ⅰ(学歴・職歴記入欄の記入の仕方)</li> <li>9. 履歴書の作成Ⅱ(パーソナルデータ(履歴書右半分)のまとめ方・ポイント)</li> <li>10. 作文の作成Ⅰ(原稿用紙の表記上の留意点、主な文章構成のパターン)</li> <li>11. 作文の作成Ⅱ(就職作文の留意点他)</li> <li>12. 小論文・提出レポートの作成Ⅰ(資料の活用の仕方、主な文章構成のパターン)</li> <li>13. 小論文・提出レポートの作成Ⅱ(作成演習)</li> <li>14. 小論文・提出レポートの作成Ⅲ(作成演習 続き)</li> <li>15. 期末試験</li> </ol>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>&lt;改訂&gt;保育者になるための国語表現(田上貞一郎 著/萌文書林)</p>					
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業時に提示された課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>					



[使用テキスト・参考文献]

- ・「楽典入門」(k m p)
- ・「幼児のための音楽教育」(教育芸術社)
- ・五線ノート
- ・バイエル
- ・ブルグミュラー25の練習曲

[成績評価の方法と基準]

教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

- ・ 考査点(75%)
  - ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末考査を実施する。
- ・ 平常点(25%)
  - ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。
  - ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  保育の音楽表現Ⅱ	授業の種類  ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者	当該科目に関する実務経験
		風間 章子 廣野 仁美	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・ 時期 1年・後期	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]

- ・ 楽典で基礎理論を学ぶ。
- ・ 保育の音楽表現Ⅰで学んだコードで弾き歌いを実践する。
- ・ 童謡やバイエルを弾き、読譜力と演奏力を身に付ける。

[授業全体の内容の概要]

- ・ 全体での授業では、引き続き楽典と童謡の両手奏、学んだコードでの弾き歌いを実践する。
- ・ 個人レッスンでは、バイエルやブルグミュラー等でより、読譜力と演奏力を身につける。

[授業終了時の達成課題 (到達目標)]

- ・ 「楽典入門」で学んだ楽典の筆記試験
- ・ 童謡の両手奏と学んだコードを使った弾き歌いの実技試験
- ・ バイエルやブルグミュラー等の実技試験

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] (集団レッスンの内容)

【楽典学習内容】	【ピアノ実技内容】	【経験する演奏コード】
1・ 音程	1・ チューリップ・ たなぼたさま	1・ へ長調の両手カデンツ
2・ ↓	2・ ↓ ↓ (カデンツで弾き歌い)	2・ へ長調のコード (I, I V, V7)
3・ ↓	3・ ↓ ↓ お正月	3・ ↓
4・ ↓	4・ ↓ ↓ ↓	4・ ト長調の両手カデンツ
5・ ↓	5・ あわてんぼうのサンタクロース ↓	5・ ト長調のコード (I, I V, V7)
6・ コードネーム、コードネーム	6・ ↓ ↓	6・ ↓
7・ の作り方 (メジャーコード	7・ ↓ ↓	7・ ↓
8・ マイナコード)	8・ ↓ ↓	8・ ↓
9・ セブンスコード ↓	9・ ↓ ふしぎなポケット	9・ ↓
10・ ↓ ↓	10・ 山の音楽家 (カデンツで弾き歌い)	10・ ↓
11・ ↓ ↓	11・ ↓ ↓	11・ ↓
12・ ↓ ↓	12・ ↓ ↓	12・ ↓
13・ まとめ	13・ ↓ ↓	13・ ↓
14・ まとめ	14・ ↓ ↓	14・ ↓
15・ 期末試験 (筆記)	15 期末試験 (実技)	15・ ↓

[使用テキスト・参考文献]

- ・ 「楽典入門」 (k m p)
- ・ 「幼児のための音楽教育」 (教育芸術社)
- ・ 五線ノート
- ・ バイエル
- ・ ブルグミュラー25の練習曲

[成績評価の方法と基準]

教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

- ・ 考査点(75%)
  - ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末考査を実施する。
- ・ 平常点(25%)
  - ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。
  - ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  保育の音楽表現Ⅲ	授業の種類  ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者	当該科目に関する実務経験
		風間 章子 廣野 仁美	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・ 時期 2年・前期	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]

- ・ 楽典で基礎理論を学ぶ。
- ・ コードやカデンツを様々な調で弾き、弾き歌いの手法を身に付ける。
- ・ 童謡やバイエル等で、読譜力と演奏力を身に付ける。

[授業全体の内容の概要]

- ・ 全体での授業では、引き続き楽典と、コードやカデンツに加え、スケールを弾き、弾き歌いを身に付ける
- ・ 個人レッスンでは、バイエルやブルグミュラー等で、より読譜力と演奏力をつける。

[授業終了時の達成課題 (到達目標)]

- ・ 「楽典入門」で学んだ楽典の筆記試験
- ・ 童謡の両手演奏と、学んだコードやカデンツを使った弾き歌いの実技試験
- ・ バイエルやブルグミュラー等、個々のレベルに応じた実技試験

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] (集団レッスンの内容)

【楽典学習内容】	【ピアノ実技内容】	【経験する演奏コード】
1、 長音階	1・[こいのぼり・うれしいひなまつり]	1・ハ長調スケール、ニ短調コード、 両手カデンツ
2 ↓	2 ↓	2 ↓
3 短音階 (自然音階)	3 ↓ せんせいとおともだち	3 ↓
4 ↓	4 ↓ ↓	4 ↓
5 ↓	5 ↓ ↓	5 ト長調スケール
6・短音階 (和声音階・旋律音階)	6 うみ ↓	6 ↓
7 ↓	7 ↓ ↓	7・ニ長調スケール、ニ長調コード、 両手カデンツ
8 ↓	8 ↓ ↓	8 ↓
9 ↓	9 ↓ ↓	9 ↓
10 ↓	10 ↓ ↓	10 ↓
11 調合3つまでの音階	11 ↓ あめふりくまのこ	11 ↓
12 ↓	12 ↓ ↓	10・
13 ↓	13 ↓ ↓	11 ハ長調、ト長調、ニ長調 スケール、コード、カデンツ 復習
14・ まとめ	14 試験練習 ↓	12 ↓
15・ 期末試験 (筆記)	15 期末試験 ↓	13 ↓
		14・ まとめ
		15・ 期末試験 (筆記)

[使用テキスト・参考文献]

- ・「楽典入門」(k m p)
- ・「幼児のための音楽教育」(教育芸術社)
- ・五線ノート
- ・バイエル
- ・ブルグミュラー25の練習曲

[成績評価の方法と基準]

教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

- ・ 考査点(75%)
  - ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末考査を実施する。
- ・ 平常点(25%)
  - ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。
  - ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  保育の音楽表現Ⅳ	授業の種類  ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者	当該科目に関する実務経験
		風間 章子 廣野 仁美	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・ 時期 2年・後期	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]

- ・ 保育の音楽表現Ⅰ～Ⅲまでに学んだコードやカデンツを使って弾き歌いができるようにする。
- ・ 簡単なメロディーにカデンツ伴奏をつけられるようにする。(コードネームを見てつける)
- ・ 童謡を演奏できるような技術をさらに身に付ける。
- ・ 個々の力に合わせ、バイエルやブルグミュラーなどを使い、さらに演奏力を向上させる。

[授業全体の内容の概要]

- ・ 全員での授業では、スケール、コード、カデンツを弾き、弾き歌いを行う。
- ・ 個人レッスンでは、個々の力に応じて、さらに技術や表現を向上させる。

[授業終了時の達成課題 (到達目標)]

- ・ 「楽典入門」で学んだ楽典の筆記試験
- ・ スケールとカデンツを使った伴奏付けの実技試験
- ・ 童謡の両手奏と弾き歌いの実技試験
- ・ バイエルやブルグミュラー等、個々のレベルに応じた実技試験

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] (集団レッスンの内容)

【楽典学習内容】	【ピアノ実技内容】	【経験する演奏コード】
1	1・おかえりのうた	1・ハ長調、ト長調、ニ長調
2	2 ↓ やきいもグーチーパー	スケール、コード、カデンツ
3・伴奏付け、ハ長調、ト長調	3 ↓ ↓	2・↓
4 ↓	4・おばけなんてないさ ↓	3・↓
5 ↓	5 ↓ ↓	4・↓
6 ↓ 伴奏付け、ハ長調	6 ↓ ↓	5・↓
7 ↓ ↓	7 ↓ ↓	6・↓ ハ長調、スケール、コード、カデンツ
8 ↓ ↓	8 ↓ まめまき	7・↓ ↓
9 ↓ ↓	9 ↓ ↓	8・↓ ↓
10 ↓ ↓	10 ↓ ↓	9・↓ ↓
11 ↓ ↓	11・いちねんせいになったら ↓	10・↓ ↓
12 ↓ ↓	12 ↓ ↓	11・↓ ↓
13 ↓ ↓	13 ↓ ↓	12・↓ ↓
14 ↓ ↓	14・ 試験練習	13・↓ ↓
15 期末試験	15・ 期末試験	14・↓ ↓
		15・ 期末試験

[使用テキスト・参考文献]

- ・「楽典入門」(k m p)
- ・「幼児のための音楽教育」(教育芸術社)
- ・五線ノート
- ・バイエル
- ・ブルグミュラー25の練習曲

[成績評価の方法と基準]

教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

- ・ 考査点(75%)
  - ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末考査を実施する。
- ・ 平常点(25%)
  - ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。
  - ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  保育の計画と評価	授業の種類  ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ) ・ 演習 ・ 実習 )	授業担当者  青田 由美子	当該科目に関する実務経験  保育士
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。</li> <li>2. 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。</li> <li>3. 子どもの理解に基づく保育の過程 (計画・実践・記録・省察・評価・改善) について、その全体構造を捉え、理解する。</li> </ol> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。</li> <li>・ 子どもの主体性を反映した指導計画の作成について具体的に理解する。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所においては保育課程に基づいて指導計画を作成し、日々の保育を展開することや、子どもの発達の連続性を意識した生活や保育内容にしていくことを理解する。</li> <li>・ 計画、実践、記録、省察、評価、改善の過程について、その全体構造を理解する。</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の基本について</li> <li>2. 「教育課程」・「全体的な計画」と指導計画</li> <li>3. 幼稚園の理解</li> <li>4. 保育所の理解</li> <li>5. 指導計画の作成の基本とその方法</li> <li>6. 幼稚園・保育所の部分指導計画 (幼稚園の部分指導計画)</li> <li>7. 幼稚園・保育所の部分指導計画 (保育所の部分指導計画)</li> <li>8. 乳児、1・2 歳児の特徴と指導計画①</li> <li>9. 乳児、1・2 歳児の特徴と指導計画②</li> <li>10. 幼児の特徴と指導計画 (3 歳児の特徴と保育)</li> <li>11. 幼児の特徴と指導計画 (4 歳児の特徴と保育)</li> <li>12. 幼児の特徴と指導計画 (5 歳児の特徴と保育)</li> <li>13. 保育の実践と評価①</li> <li>14. 保育の実践と評価②</li> <li>15. 期末試験</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>教育課程・保育の計画と評価－書いて学べる指導計画－ (岩崎淳子 他 著／萌文書林)</p>			
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点 (75%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点 (25%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 保育の言語表現	授業の種類 ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者 柳田 真理子	当該科目に関する実務経験 保育士
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 ( 1 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳幼児の言葉の発達や児童文化財に関する基本的な理解を深めるとともに実践力を身につける。</li> </ul> [授業全体の内容の概要] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言語表現の基本的な理論を学んだ後、実践にいかせる演習を中心に行う。</li> </ul> [授業終了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育内容の領域「言葉」のねらいや内容、乳幼児の言葉の発達を理解し、さまざまな児童文化財等の実演を通して、実践に応用できる力を身につける。</li> </ul>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1 児童文化財とは何かー知育・徳育・美育のはたらきー 2 児童文化と表現ー子どもの表現を育てるためにー 3 子ども (乳幼児) のことばの発達 4 児童文化財とことばー保育内容領域「言葉」とのかかわりー 5 子どものことばを豊かに育む保育者の役割ー保育者の役割と環境構成ー 6 おはなし／絵本／紙芝居／素話 (ストーリーテリング) 7 パネルシアター／ペープサート／人形劇 8 製作① 9 製作② 10 製作③ 11 製作④ 12 製作⑤ 13 製作⑥ 14 実演発表 15 期末試験			
[使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育者のための言語表現の技術 (萌文書林) 《参考文献》</li> <li>・ ことばと表現力を育む児童文化 (萌文書林)</li> </ul>			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点 (75%)                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点 (25%)                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)		授業の種類		授業担当者	当該科目に関する 実務経験
保育の心理学		(講義)・演習・実習)		中山 知子	保育教諭
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期		必修・選択	
15 回	30 時間 (2 単位)	1 年・後期		必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの発達過程や精神保健等、保育の対象理解における子どもの心理的側面の重要性を理解する。</li> <li>子どもの心理的な発達や学びの過程など、子どもの心理的な側面の理解に関する知識を習得する。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの心身両面の健康の意義を基礎とし、保育実践に要する発達理論の知識及び、心理学的知識等、保育に要する専門的知識を習得する。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育実践に関わる発達理論等の心理的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解できる。</li> <li>子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解ができる。</li> <li>乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義が理解できる。</li> </ul>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>子どもの福祉と保育の心理学 子ども観の変遷と子どもの福祉①</li> <li>子どもの福祉と保育の心理学 子ども観の変遷と子どもの福祉②</li> <li>子どもの福祉と保育の心理学 子どもの発達と家庭・地域における保育</li> <li>子どもの福祉と保育の心理学 子どもの発達支援と施設における保育</li> <li>多様な側面における子どもの発達 発達と環境との関係①</li> <li>多様な側面における子どもの発達 発達と環境との関係②</li> <li>多様な側面における子どもの発達 感情・自己意識の発達</li> <li>多様な側面における子どもの発達 身体・運動機能の発達</li> <li>多様な側面における子どもの発達 知覚・認知の発達①</li> <li>多様な側面における子どもの発達 知覚・認知の発達②</li> <li>多様な側面における子どもの発達 言語・コミュニケーションの発達</li> <li>生涯発達を見据えた発達支援 乳児期 (0～1 歳) の発達課題と支援</li> <li>生涯発達を見据えた発達支援 幼児前期 (1～3 歳) の発達課題と支援</li> <li>生涯発達を見据えた発達支援 幼児後期 (4～6 歳) の発達課題と支援</li> <li>期末試験</li> </ol>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シードブック 保育の心理学 I・II 建帛社</li> </ul>					
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点 (75%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点 (25%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>					

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  保育の身体表現 I	授業の種類  ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者  近藤 鈴	当該科目に関する実務経験  保育士
授業の回数  15 回	時間数 (単位数)  30 時間 (1 単位)	配当学年・時期  1 年・前期	必修・選択  必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 保育の内容「表現」を基に、保育における身体表現活動の意義を理解する。</li> <li>• 子どもの発達、運動機能と身体表現活動の結びつきを理解する。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 受動的学習ではなく、ワークショップ、ディベートなどを取り入れ、学生自身が主体性をもって学ぶことができるようにする。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 子どもにとっての身体表現の意味や保育における身体表現活動の意義を理解する。</li> <li>• 身体表現 I での学びを身体表現 II への学習への意欲へとつなげる。</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 身体表現とは何か</li> <li>2 豊かな身体表現力を育てる①豊かな身体表現とは</li> <li>3 豊かな身体表現力を育てる②「豊かな身体表現」の概念</li> <li>4 豊かな身体表現力を育てる③身体表現を支えるもの</li> <li>5 豊かな身体表現力を育てる④双方向性こそが身体表現力を育てる</li> <li>6 身体表現の考え方①幼稚園教育要領・保育所保育指針の考え方</li> <li>7 身体表現の考え方②発達過程で見られる身体表現の様子</li> <li>8 保育者と身体表現①身体表現の基礎力を高める</li> <li>9 保育者と身体表現②保育者が指導する上で重要視していること</li> <li>10 保育者と身体表現③保育者の抱える身体表現の指導上の悩み</li> <li>11 子ども達と身体表現① 0～1 歳児の身体表現</li> <li>12 子ども達と身体表現② 2～3 歳児の身体表現</li> <li>13 子ども達と身体表現③ 4～5 歳児の身体表現</li> <li>14 子ども達と身体表現⑤異年齢の子どものかかわりから</li> <li>15 期末試験</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>『保育表現技術』豊かに育つ・育てる身体表現 (ミネルヴァ書房)</p>			
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 考查点 (75%) <ul style="list-style-type: none"> <li>• 到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>• 平常点 (25%) <ul style="list-style-type: none"> <li>• 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>• 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)		授業の種類		授業担当者	当該科目に関する実務経験
保育の身体表現Ⅱ		( 講義・ <b>演習</b> ・ 実習 )		近藤 鈴	保育士
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択		
15 回	30 時間 (1 単位)	1 年・後期	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育の身体表現Ⅰでの学びを踏まえ、現場での保育を見据えた演習を通して、身体表現活動を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの表現活動の援助・指導について学ぶ。幼児の表現活動の特徴について理解し、幼児の活動を援助する為に必要な基礎技術を身につける。また学生自身が表現遊びの計画・実践・評価ができるような参加型の授業として進める。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>演習を通して、学生 (自分) 自身が表現遊びの楽しさを味わい、子どもの目線に立った保育の展開を考えることができる。</li> </ul>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>身体表現あそびの指導 ①指導上の配慮</li> <li>身体表現あそびの指導 ②部分実習に使える指導案</li> <li>子どもが喜ぶ身体表現の教材             <ol style="list-style-type: none"> <li>①ひとりで ふたりにで みんなで</li> <li>②やってもらおうあそび・やってあげるあそび</li> </ol> </li> <li>③かおあそび             <ol style="list-style-type: none"> <li>④じゃんけんあそび</li> </ol> </li> <li>⑤手あそび・うたあそび             <ol style="list-style-type: none"> <li>⑥かえうたあそび</li> </ol> </li> <li>⑦フォークダンス・リズムダンス</li> <li>〃</li> <li>⑧表現遊び (リトミック)</li> <li>創作ダンス①</li> <li>創作ダンス②</li> <li>創作ダンス③</li> <li>創作ダンス④</li> <li>創作ダンス⑤</li> <li>発表</li> <li>期末試験</li> </ol>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>『保育表現技術』豊かに育つ・育てる身体表現 (ミネルヴァ書房)</p>					
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点 (75%)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点 (25%)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>					

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 保育の身体表現Ⅲ		授業の種類 ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )		授業担当者 柳田 真理子	当該科目に関する実務経験 保育士
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・前期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育の身体表現Ⅱでの学びを踏まえ、現場での保育を見据えた演習を通して、身体表現活動を展開していくための実践力を身に付ける。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの身体表現活動の指導について学ぶ。幼児の年齢別の発達の特徴について理解し、幼児の活動を援助する為に必要な基礎技術を身につける。また学生自身が表現遊びの計画・実践・評価ができるような参加型の授業として進める。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演習を通して、学生 (自分) 自身が表現遊びの楽しさを味わい、子どもの目線に立った保育の展開を考えることができる。</li> </ul>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 行事や普段の遊びに活用できる身体表現、踊り (0・1 歳児)</li> <li>2 (2 歳児)</li> <li>3 (3 歳児)</li> <li>4 (4 歳児)</li> <li>5 (5 歳児)</li> <li>6 和物の踊り</li> <li>7 親子・ペアの踊り</li> <li>8 運動・体育遊び</li> <li>9 様々な道具を使ったサーキット遊び等</li> <li>10 //</li> <li>11 //</li> <li>12 ゲーム遊び</li> <li>13 簡単なルールのある遊び等</li> <li>14 //</li> <li>15 期末試験</li> </ol>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要に応じて参考プリント配布</li> </ul>					
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点 (75%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点 (25%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>					

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  保育の造形表現 I	授業の種類  ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者  溝口 敏美	当該科目に関する 実務経験
授業の回数  15 回	時間数 (単位数)  30 時間 (1 単位)	配当学年・時期  1 年・前期	必修・選択  必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳幼児期の造形活動の基礎知識を身につけ、様々な表現技法を知り、実践しながら感性を養う。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵画、工作などの製作、造形表現についての講義</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 材料、用具の特性と造形の基礎知識を理解し授業と通して創意工夫できたか。</li> <li>・ 授業を通して造形活動の流れ、技法を理解し作品に生かすことができたか。</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、 平面 (画用紙・鉛筆、消しゴム・カッターナイフ・マスキングテープを用いて)             <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 白と黒の世界を鉛筆を使用しての線描画の作成 (黒鉛筆、白消しゴム)</li> </ul> </li> <li>2、 同上</li> <li>3、 平面 (画用紙・鉛筆・絵具を用いて)             <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 絵具を使用しての静物画の作成</li> </ul> </li> <li>4、 同上</li> <li style="padding-left: 20px;">同上</li> <li>5、 平面 (画用紙・絵具を用いて)             <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 抽象画</li> </ul> </li> <li>6、 平面 (画用紙・絵具・鉛筆を用いて)             <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 大きな絵をグループで作成する。キャラクターと場面構成を決める</li> </ul> </li> <li>7～11 同上</li> <li>12 切り絵 (色画用紙・糊・はさみを用いて)             <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 季節が分かる行事の表現</li> </ul> </li> <li>13 同上</li> <li>14 平面 (押す・こする・焼く・切り裂く)             <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 様々な技法を使用して表現する。</li> </ul> </li> <li>15 上記の経験を生かし、みんなで意見交換しながらの作品鑑賞会</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>無し</p>			
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点 (75%)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、提出物の状況及び、作品等の評価により期末考查点とする。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点 (25%)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  保育の造形表現Ⅱ	授業の種類  ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者  溝口 敏美	当該科目に関する 実務経験
授業の回数  15 回	時間数 (単位数)  30 時間 (1 単位)	配当学年・時期  1 年・後期	必修・選択  必修
[授業の目的・ねらい] ・ こどもと一緒に楽しめる造形活動を学ぶ。 [授業全体の内容の概要] ・ 様々な素材、技法を使用した作品作りをする。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ 自身のアイデアも取り入れ、楽しみながら造形活動を行うこどもの発達段階に合わせた造形活動を展開できるようになる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] テーマ : 立体作品を作成する  1 被る① (色画用紙・糊・はさみを用いて) ※ キャラクターを決める。お面を作る 2 被る② (色画用紙・糊・はさみを用いて) ※ 帽子を作る。パーティー用の可愛い感じにする。 3 2 と 同 上 4 石に絵を描く 石の形を見据えて家や動物などを描く。 ※ 石を拾ってくる。絵具、ニスを用いる。  5 紙粘土で、指人形を作る (紙粘土・絵具・毛糸を用いて) 6 5 と 同 上  7 ~ 1 2 段ボールでドールハウス作成 (段ボール・絵具・紙粘土・色紙を用いて)  1 3 モールを使用して表現する ※ カラーモールを使用し作成 (指輪・王冠・動物など)  1 4 粘土で可愛いお弁当を作る (粘土・お弁当箱・色紙・ゴム・絵具を用いて)  1 5 各作品の鑑賞会及び意見交換会			
[使用テキスト・参考文献] 無し			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が 80% 以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、提出物の状況及び作品の評価により期末考查点とする。 ・ 平常点 (25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  保育原理 I	授業の種類  ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )	授業担当者  青田 由美子	当該科目に関する実務経験  保育士
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「生涯にわたる人間形成の基礎を培う時期」に保育士として子どもにかかわることを常に胸に刻み、保育とは何かを学んでいく。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育の意義、基本的原理、歴史と現状、課題、様々な保育思想などの基本知識を学ぶ。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育とは何か、子ども観、保育環境、保育内容と方法、保育の計画など保育の全体像について理解する。また、現状において保育者に求められることは何かなどについて、自分なりに考察できる。</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育について：保育の理念、子どものための保育、保育所・保育士の社会的役割</li> <li>2 子どもと保育に関する法令：子ども家庭福祉における保育と法令 子ども・子育て新制度</li> <li>3 保育所とは①保育所保育指針とは？・保育所の役割と目的</li> <li>4 保育における「育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が求められるのは？</li> <li>5 保育に関わるねらい及び内容①乳児保育に関わるねらい及び内容</li> <li>6 保育に関わるねらい及び内容②3歳以上児に関するねらい及び内容</li> <li>7 保育所と小学校の連携強化 その背景と実際</li> <li>8 幼稚園について学ぶ</li> <li>9 幼保連携型認定こども園について学ぶ① (目的・目標・内容)</li> <li>10 幼保連携型認定こども園について学ぶ② (こども園の教育と保育・子育て支援)</li> <li>11 保育所保育の方法 (環境を通して行う保育の必要性)</li> <li>12 保育の計画と評価① (計画・実践・評価・改善)</li> <li>13 部分実習指導案の立て方</li> <li>14 部分指導案の作成 (保育実習 I を想定して)</li> <li>15 期末試験</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ つまがる保育原理 (みらい)</li> <li>・ 保育所保育指針解説書 (フレーベル館)</li> <li>・ 幼稚園教育要領解説 (フレーベル館)</li> </ul>			
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点 (75%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点 (25%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  保育原理Ⅱ		授業の種類  ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )		授業担当者  青田 由美子	当該科目においての実務経験  保育士
授業の回数  15回	時間数 (単位数)  30時間 (2単位)	配当学年・時期  2年・後期	必修・選択  必修		
[授業の目的・ねらい] ・ 「生涯にわたる人間形成の基礎を培う時期」に保育士として子どもにかかわることを常に胸に刻み、保育とは何かを学んでいく。					
[授業全体の内容の概要] ・ 保育の意義、基本的原理、歴史と現状、課題、様々な保育思想などの基本知識を学ぶ。					
[授業終了時の達成課題 (到達目標) ] ・ 保育とは何か、また現状において保育者に求められることは何かなどについて自分なりに考察できる。歴史や制度を理解し実践を支える力を身に付ける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1 保育の歴史に何を学ぶか 2 保育の歴史に何を学ぶか 3 保育者に求められるもの 4 保育者に求められるもの 5 家庭支援と子育て支援 6 家庭支援と子育て支援 7 保育の評価と苦情処理及び保育者の研修 8 保育の評価と苦情処理及び保育者の研修 9 保育の現状と課題 10 保育の現状と課題 11 保育の現状と課題 12 まとめ 13 総まとめ 14 総まとめ 15 定期試験					
[使用テキスト・参考文献] ・ つながる保育原理 (みらい) ・ 保育所保育指針解説書 (フレーベル館) ・ 幼稚園教育要領解説 (フレーベル館)			[単位認定の方法及び基準] ・ 定期試験 ・ 出席状況、授業態度、提出物評価		

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  保育士のメンタルヘルス	授業の種類  ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )	授業担当者  板垣 寛	当該科目に関する 実務経験  臨床心理士 児童相談所相談員 児童発達支援センター 相談員																														
授業の回数  15回	時間数 (単位数)  30時間 (2単位)	配当学年・時期  2年・後期	必修・選択  必修																														
[授業の目的・ねらい] 労働者を取り巻く職場環境は急激な変化が続いており、労働者のストレスや心の健康問題が深刻化している。こうした状況下で、保育士資格取得を目指す学生自身が自らの健康を保持増進するための知識と技術を獲得し、心の不調に振り回されない為の術を学ぶ。 [授業全体の内容の概要] ストレスと心の関係や職場におけるメンタルヘルスについて学び、最終的に大阪商工会議所主催『メンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ種』の合格を目指す。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] (1) 代表的なストレス理論について説明でき、セルフケアのためのワークが実践できる。 (2) 労働者のメンタルヘルスのリスク要因について説明できる。 (3) 「メンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ種」に関する語句の理解と、資格取得ができる。 (4) 「自発的な相談の有用性」について説明でき、自ら援助希求が出せる。																																	
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">1. メンタルヘルスクアの意義</td> <td>労働者のストレスの現状とメンタルヘルスの意義</td> </tr> <tr> <td>2. ストレスの基礎知識</td> <td>ストレス理論とストレスコーピング</td> </tr> <tr> <td>3. メンタルヘルスの基礎知識</td> <td>ストレス関連疾患と身体反応</td> </tr> <tr> <td>4. セルフケアの重要性</td> <td>過重労働と自己保健義務</td> </tr> <tr> <td>5. ストレスへの気づき</td> <td>注意すべきリスク要因とストレスチェック</td> </tr> <tr> <td>6. ストレスへの対処と軽減方法</td> <td>ストレス状態とストレス要因、社会資源の活用</td> </tr> <tr> <td>7. 自発的な相談の有用性</td> <td>コミュニケーションスキルとカウンセリング</td> </tr> <tr> <td>8. 産業カウンセリング①</td> <td>産業領域におけるカウンセリング理論</td> </tr> <tr> <td>9. 産業カウンセリング②</td> <td>介入事例の検討</td> </tr> <tr> <td>10. 復職支援</td> <td>リワークプログラムと職場復帰支援制度</td> </tr> <tr> <td>11. 検定対策①</td> <td>重要語句の確認と模擬試験</td> </tr> <tr> <td>12. 検定対策②</td> <td>模擬試験解説とグループワークによる振り返り</td> </tr> <tr> <td>13. 検定対策③</td> <td>過去問題の実施と解説</td> </tr> <tr> <td>14. 検定対策④</td> <td>予想問題の実施と解説</td> </tr> <tr> <td>15. 期末試験</td> <td></td> </tr> </table>				1. メンタルヘルスクアの意義	労働者のストレスの現状とメンタルヘルスの意義	2. ストレスの基礎知識	ストレス理論とストレスコーピング	3. メンタルヘルスの基礎知識	ストレス関連疾患と身体反応	4. セルフケアの重要性	過重労働と自己保健義務	5. ストレスへの気づき	注意すべきリスク要因とストレスチェック	6. ストレスへの対処と軽減方法	ストレス状態とストレス要因、社会資源の活用	7. 自発的な相談の有用性	コミュニケーションスキルとカウンセリング	8. 産業カウンセリング①	産業領域におけるカウンセリング理論	9. 産業カウンセリング②	介入事例の検討	10. 復職支援	リワークプログラムと職場復帰支援制度	11. 検定対策①	重要語句の確認と模擬試験	12. 検定対策②	模擬試験解説とグループワークによる振り返り	13. 検定対策③	過去問題の実施と解説	14. 検定対策④	予想問題の実施と解説	15. 期末試験	
1. メンタルヘルスクアの意義	労働者のストレスの現状とメンタルヘルスの意義																																
2. ストレスの基礎知識	ストレス理論とストレスコーピング																																
3. メンタルヘルスの基礎知識	ストレス関連疾患と身体反応																																
4. セルフケアの重要性	過重労働と自己保健義務																																
5. ストレスへの気づき	注意すべきリスク要因とストレスチェック																																
6. ストレスへの対処と軽減方法	ストレス状態とストレス要因、社会資源の活用																																
7. 自発的な相談の有用性	コミュニケーションスキルとカウンセリング																																
8. 産業カウンセリング①	産業領域におけるカウンセリング理論																																
9. 産業カウンセリング②	介入事例の検討																																
10. 復職支援	リワークプログラムと職場復帰支援制度																																
11. 検定対策①	重要語句の確認と模擬試験																																
12. 検定対策②	模擬試験解説とグループワークによる振り返り																																
13. 検定対策③	過去問題の実施と解説																																
14. 検定対策④	予想問題の実施と解説																																
15. 期末試験																																	
[使用テキスト・参考文献] ・大阪商工会議所編 「メンタルヘルスマネジメント検定試験公式テキストⅢ種」																																	
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。																																	

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル(科目名)  保育実習 I (施設)	授業の種類  ( 講義・演習・実習 )	授業担当者  柳田 真理子	当該科目に関する実務経験  保育士
授業の回数	時間数 (単位数)  80 時間(2 単位)	配当学年・時期  2 年・前期	必修・選択  必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 施設の一日の流れを把握し、入所児童や入所者とコミュニケーションを図ることにより利用者の理解を深める。</li> <li>• 施設の意義と今日的役割を理解する。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 実習を通して利用者の生活を理解する。</li> <li>• 実習を通して福祉施設の内容や機能を理解する。</li> <li>• 実習を通して保育士・施設職員の役割と連携を理解する。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 施設の概要を把握し、施設の実態を理解するとともに、利用者や施設の意義を学ぶ。</li> </ul>			
<p>[実習方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 施設での生活に参加することにより、一日の流れを全体的に理解し、利用者の生活の観察、職員の業務の観察を通して支援の在り方を学ぶ。</li> </ul> <p>[実習段階の具体的な内容]</p> <p>① 見学・観察実習 施設での指示を仰ぎながら生活の観察を行う。一日の生活の流れ、生活内容の概要、対象児・者のおおまかな行動と展開、それにとまなう職員の対応を把握する。</p> <p>② 参加実習 担当職員の指示に従い、生活に参加する。対象児・者と共に遊び生活することで興味や関心、感情の動きを感じ、保育(養護)の援助を学ぶ。</p> <p>③ 責任実習(部分実習) 施設での指示を仰ぎながら可能であれば生活面の一部、あるいは遊びの一部など一日の流れの部分において、事前に支援案を作成し主体的に保育を実践する。</p> <p>[実習の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 利用者の生活を理解する。</li> <li>• 日課に沿って保育士・施設職員の活動を多面的に理解する。</li> <li>• 自ら準備した課題を保育の場で実践する。</li> <li>• 保育士を志すものとして自覚を高める。</li> </ul>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• これからの時代の保育者養成実習ガイド 学生・養成校・実習園が共に学び 中央法規出版</li> <li>• 実習の手引き 適宜、プリント配布</li> </ul>			
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 考查点(75%)             <ul style="list-style-type: none"> <li>• 到達目標の修得状況を測るために、実習評価の成績により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>• 平常点(25%)             <ul style="list-style-type: none"> <li>• 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>• 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル(科目名)  保育実習 I (保育所)	授業の種類  ( 講義・演習・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">実習</span> )		授業担当者	当該科目に関する 実務経験
			青田 由美子	保育士
			神林 美保子	保育士
授業の回数	時間数 (単位数) 80 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育実習は学内で学習した理論を、保育士の仕事に助手的な形で携わることを通して、授業で学んだ内容と実践の統合をはかることを目的とする。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習を通して子どもの生活を理解する。</li> <li>・ 実習を通して子どもを取り巻く環境を理解する。</li> <li>・ 実習を通して保育士の役割を理解する。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部分実習を行うことで保育と子どもについて実践的に学ぶ。</li> <li>・ 乳幼児との関わりを通して子ども理解を確かなものにする。</li> <li>・ 保育士の役割や専門性を知り、必要な知識や技術を習得する。</li> </ul>				
<p>[実習方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所での生活に参加することにより、保育の一日の流れを全体的に理解し、乳幼児の生活や遊びの観察、保育士の保育業務の観察を通して保育所保育の在り方を学ぶ。</li> </ul> <p>[実習段階の具体的な内容]</p> <p>① 見学・観察実習 保育の実際の観察を行う。一日の生活の流れ、生活内容の概要、対象児のおおまかな行動と展開、それにもなう保育士の対応を把握する。</p> <p>② 参加実習 担当保育士の指示に従い、保育士の助手として参加する。対象児と共に遊び生活することで興味や関心、感情の動きを感じ、保育士の援助を学ぶ。</p> <p>③ 責任実習 (部分実習) 生活面の一部、あるいは遊びの一部など一日の流れの部分において、事前に指導案を作成し主体的に保育を実践する。</p> <p>[実習の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3歳未満児と幼児の生活のそれぞれを理解する。</li> <li>・ 日課に沿って保育士の活動(環境・子どもへの対応など)を多面的に理解する。</li> <li>・ 自ら準備した課題を保育の場で実践する。</li> <li>・ 保育士を志すものとして自覚を高める。</li> </ul>				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これからの時代の保育者養成実習ガイド 学生・養成校・実習園が共に学ぶ 中央法規出版</li> <li>・ 実習の手引き</li> </ul>				
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、実習評価の成績により期末考査を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>				

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  保育実習Ⅱ	授業の種類  ( 講義・演習・実習 )		授業担当者	当該科目に関する 実務経験
			青田 由美子	保育士
			神林 美保子	保育士
授業の回数	時間数 (単位数) 80 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年・後期	必修・選択 選択	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育実習は学内で学習した理論を、保育士の仕事に助手的な形で携わることを通して、授業で学んだ内容と実践の統合をはかることを目的とする。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実習を通して個々の子どもの実態を把握し、乳幼児集団について理解する。</li> <li>実習を通して保育士の援助の方法を習得する。</li> <li>実習を通して保育計画を理解し指導計画の立案の実際について学び実践する。</li> <li>実習を通して保育士集団の役割を理解する。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>部分実習を行うことで保育と子どもについて実践的に学ぶ。</li> <li>乳幼児との関わりを通して子ども理解を確かなものにする。</li> <li>保育士の役割や専門性を知り、必要な知識や技術を習得する。</li> </ul>				
<p>[実習方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育所での生活に参加し指導案計画の具体的立案の方法を保育の実践に即して理解する。</li> </ul> <p>[実習段階の具体的な内容]</p> <p>① 見学・観察実習 保育の実際の観察を行う。一日の生活の流れ、生活内容の概要、対象児のおおまかな行動と展開、それともなう保育士の対応を把握する。</p> <p>② 参加実習 担当保育士の指示に従い、保育士の助手として参加する。対象児と共に遊び生活することで興味や関心、感情の動きを感じ、保育士の援助を学ぶ。</p> <p>③ 責任実習 (部分実習) 生活面の一部、あるいは遊びの一部など一日の流れの部分において、事前に指導案を作成し主体的に保育を実践する。</p> <p>④ 責任実習 (全日実習) 実習先での一日の保育の流れを通して、学習したあらゆる知識・技術・技能を統合する。担当保育士の助言を受けつつも、実際に自己の支援計画を前面に打ち出し、保育士としての責任の一端を担い、ほぼ終日保育活動を行うとともに、それに関連した保育業務を担当する。</p> <p>[実習の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育実習Ⅰの経験を踏まえ、指導案に基づいた責任実習を行う。</li> <li>保育所保育士としての意識を高め。全般的な技術を習得する。</li> <li>よき保育士になるための自覚と今後の学習目標を明確にする。</li> </ul>				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育所施設実習ハンドブック (ミネルヴァ書房) ・実習の手引き</li> </ul>				
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>考查点 (75%) <ul style="list-style-type: none"> <li>到達目標の修得状況を測るために、実習評価の成績により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>平常点 (25%) <ul style="list-style-type: none"> <li>事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>				

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル(科目名)		授業の種類		授業担当者		当該科目に関する実務経験	
保育実習Ⅲ		( 講義・ 演習 ・ <b>実習</b> )		青田 由美子		保育士	
				神林 美保子		保育士	
授業の回数		時間数(単位数)		配当学年・時期		必修・選択	
		80 時間(2 単位)		2 年・後期		選択	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設の一日の流れを把握し、入所児童や入所者とコミュニケーションを図ることにより利用者の理解を深め、施設の意義と今日的役割を理解する。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実習を通して個々の利用者の実態を把握し、集団の生活について理解する。</li> <li>実習を通して好ましい援助の方法を具体的に体得する。</li> <li>実習を通して施設職員の役割と連携を理解する。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設の概要を把握し、施設の実態を理解するとともに、利用者や施設の意義を学ぶ。</li> </ul>							
<p>[実習方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設での生活に参加し、生活・学習・余暇活動等、援助について体験的に理解する。</li> </ul> <p>[実習段階の具体的な内容]</p> <p>① 見学・観察実習</p> <p>施設での指示を仰ぎながら生活の観察を行う。一日の生活の流れ、生活内容の概要、対象児・者のおおまかな行動と展開、それにとまなう職員の対応を把握する。</p> <p>② 参加実習</p> <p>担当職員の指示に従い、生活に参加する。対象児・者と共に遊び生活することで興味や関心、感情の動きを感じ、保育(養護)の援助を学ぶ。</p> <p>③ 責任実習(部分実習)</p> <p>施設での指示を仰ぎながら可能であれば生活面の一部、あるいは遊びの一部など一日の流れの部分において、事前に支援案を作成し主体的に保育を実践する。</p> <p>④ 責任実習(全日実習)</p> <p>実習先での一日の保育の流れを通して、学習したあらゆる知識・技術・技能を統合する。担当保育士の助言を受けつつも、実際に自己の支援計画を前面に打ち出し、保育士としての責任の一端を担い、ほぼ終日保育活動を行うとともに、それに関連した保育業務を担当する。</p> <p>[実習の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育実習Ⅰの経験を踏まえ、支援案に基づいた責任実習を行う。</li> <li>実習施設の内容や機能、保育士の役割と求められる専門性、対象児・対象者とそのニーズについての理解を深める。</li> <li>よき保育士になるための自覚と今後の学習目標を明確にする。</li> </ul>							
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育所施設実習ハンドブック(ミネルヴァ書房) ・実習の手引き</li> </ul>							

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  保育実習指導 I	授業の種類  ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者  青田 由美子 神林 美保子	当該科目に関する 実務経験  保育士 保育士		
授業の回数  30 回	時間数 (単位数)  60 時間 (2 単位)	配当学年・時期  1 年・通年	必修・選択  必修		
[授業の目的・ねらい] <ul style="list-style-type: none"> <li>• 保育実習の意義、目的を理解する。</li> <li>• 実習の内容を理解し、自らの課題を</li> </ul> [授業全体の内容の概要] <ul style="list-style-type: none"> <li>• 実習に関する概要、方法、記録のとり方、実習生としての心構えなどについて学習する。</li> <li>• 学外からの特別講師から理論や実技などを学ぶ。</li> </ul> [授業終了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> <li>• 保育実習の意義、目的を理解し、自分なりのめあてを持って意欲的に実習に取り組む。</li> </ul>					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の目的と意義</li> <li>2. 実習の留意事項について (マナー、守秘義務など)</li> <li>3. 保育現場の実際①</li> <li>4. 保育現場の実際②</li> <li>5. 保育とは① (保育内容の展開、内容構成、子どもの活動)</li> <li>6. 保育とは② (保育内容の展開、内容構成、子どもの活動)</li> <li>7. 現代の保育について (認定こども園・幼保一元化・子ども子育て新プランなど)</li> <li>8. 観察と記録① (視聴覚教材を通して)</li> <li>9. 観察と記録② (視聴覚教材を通して)</li> <li>10. 実習日誌の書き方について①</li> <li>11. 実習日誌の書き方について②</li> <li>12. 指導案の書き方について①</li> <li>13. 指導案の書き方について②</li> <li>14. 指導案 (部分実習) 作成</li> <li>15. 特別講演会 (保育)</li> </ol> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>16. 身上書の書き方、事前訪問の仕方について</li> <li>17. お礼状の書き方について</li> <li>18. 自己紹介用の小物製作①</li> <li>19. 自己紹介用の小物製作②</li> <li>20. 事前指導①実習に関する書類 (様式) の確認</li> <li>21. 事前指導②実習日誌・指導案についての確認</li> <li>22. 事前指導③実習に向けての心構え、留意事項の確認</li> <li>23. 事前指導④巡回担当教員との面談</li> <li>24. 実習目標設定</li> <li>25. 保育所実習反省会</li> <li>26. 施設実習の目的・意義／施設とは (施設の機能と特徴)</li> <li>27. 施設の実際／保育士の役割</li> <li>28. 施設見学</li> <li>29. 演習 (食事・着脱・排泄など施設での様々な場面における対応について)</li> <li>30. 特別講演会 (施設)</li> </ol> </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の目的と意義</li> <li>2. 実習の留意事項について (マナー、守秘義務など)</li> <li>3. 保育現場の実際①</li> <li>4. 保育現場の実際②</li> <li>5. 保育とは① (保育内容の展開、内容構成、子どもの活動)</li> <li>6. 保育とは② (保育内容の展開、内容構成、子どもの活動)</li> <li>7. 現代の保育について (認定こども園・幼保一元化・子ども子育て新プランなど)</li> <li>8. 観察と記録① (視聴覚教材を通して)</li> <li>9. 観察と記録② (視聴覚教材を通して)</li> <li>10. 実習日誌の書き方について①</li> <li>11. 実習日誌の書き方について②</li> <li>12. 指導案の書き方について①</li> <li>13. 指導案の書き方について②</li> <li>14. 指導案 (部分実習) 作成</li> <li>15. 特別講演会 (保育)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>16. 身上書の書き方、事前訪問の仕方について</li> <li>17. お礼状の書き方について</li> <li>18. 自己紹介用の小物製作①</li> <li>19. 自己紹介用の小物製作②</li> <li>20. 事前指導①実習に関する書類 (様式) の確認</li> <li>21. 事前指導②実習日誌・指導案についての確認</li> <li>22. 事前指導③実習に向けての心構え、留意事項の確認</li> <li>23. 事前指導④巡回担当教員との面談</li> <li>24. 実習目標設定</li> <li>25. 保育所実習反省会</li> <li>26. 施設実習の目的・意義／施設とは (施設の機能と特徴)</li> <li>27. 施設の実際／保育士の役割</li> <li>28. 施設見学</li> <li>29. 演習 (食事・着脱・排泄など施設での様々な場面における対応について)</li> <li>30. 特別講演会 (施設)</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の目的と意義</li> <li>2. 実習の留意事項について (マナー、守秘義務など)</li> <li>3. 保育現場の実際①</li> <li>4. 保育現場の実際②</li> <li>5. 保育とは① (保育内容の展開、内容構成、子どもの活動)</li> <li>6. 保育とは② (保育内容の展開、内容構成、子どもの活動)</li> <li>7. 現代の保育について (認定こども園・幼保一元化・子ども子育て新プランなど)</li> <li>8. 観察と記録① (視聴覚教材を通して)</li> <li>9. 観察と記録② (視聴覚教材を通して)</li> <li>10. 実習日誌の書き方について①</li> <li>11. 実習日誌の書き方について②</li> <li>12. 指導案の書き方について①</li> <li>13. 指導案の書き方について②</li> <li>14. 指導案 (部分実習) 作成</li> <li>15. 特別講演会 (保育)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>16. 身上書の書き方、事前訪問の仕方について</li> <li>17. お礼状の書き方について</li> <li>18. 自己紹介用の小物製作①</li> <li>19. 自己紹介用の小物製作②</li> <li>20. 事前指導①実習に関する書類 (様式) の確認</li> <li>21. 事前指導②実習日誌・指導案についての確認</li> <li>22. 事前指導③実習に向けての心構え、留意事項の確認</li> <li>23. 事前指導④巡回担当教員との面談</li> <li>24. 実習目標設定</li> <li>25. 保育所実習反省会</li> <li>26. 施設実習の目的・意義／施設とは (施設の機能と特徴)</li> <li>27. 施設の実際／保育士の役割</li> <li>28. 施設見学</li> <li>29. 演習 (食事・着脱・排泄など施設での様々な場面における対応について)</li> <li>30. 特別講演会 (施設)</li> </ol>				
[使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> <li>• これからの時代の保育者養成実習ガイド 学生・養成校・実習園が共に学ぶ 中央法規出版</li> <li>• 保育実習の手引き</li> </ul>					
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 考查点 (75%)                         <ul style="list-style-type: none"> <li>• 到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>• 平常点 (25%)                         <ul style="list-style-type: none"> <li>• 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>• 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>					

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  保育実習指導Ⅱ	授業の種類  ( 講義 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者  柳田 真理子	当該科目に関する実務経験  保育士
授業の回数  15回	時間数 (単位数)  30時間(1単位)	配当学年・時期  2年・前期	必修・選択  選択
[授業の目的・ねらい] <ul style="list-style-type: none"> <li>• 保育実習の意義や目的を理解し、実習に向けた目的意識を高め、課題を持って実習に取り組めるように学ぶとともに、実習記録に関する指導、指導案の考え方や教材準備、保育実技など、実習を円滑に進めるための知識や技能を習得する。</li> </ul> [授業全体の内容の概要] <ul style="list-style-type: none"> <li>• 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。</li> <li>• 子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。</li> <li>• 保育計画、実践、観察、記録等について実際に取り組み、理解を深める。</li> </ul> [授業終了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> <li>• 保育士としての意識を高め、技術を習得することができる。</li> <li>• 自らの保育実習における課題を明確にして取り組み、保育者として豊かな人間性を育む。</li> </ul>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]  1. 保育実習Ⅱに向けて (保育実習Ⅰを振り返り、課題を明確にする) 2. 実習の概要 3. 日誌・指導案について① 4. 日誌・指導案について② 5. 模擬保育① 6. 模擬保育② 7. 模擬保育③ 8. 模擬保育④ 9. 直前指導①実習の心得、マナー、留意事項の確認 10. 直前指導② 11. 直前指導③ 12. 巡回教員との面談 13. 保育実習Ⅱ振り返り 14. 保育実習Ⅱ反省会 15. 保育実習総まとめ			
[使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> <li>• これからの時代の保育者養成実習ガイド 学生・養成校・実習園が共に学び 中央法規出版</li> <li>• 実習の手引き ・必要に応じて資料プリント配布</li> </ul>			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 考查点(75%)                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>• 平常点(25%)                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  保育実習指導Ⅲ	授業の種類  ( 講義・ <b>演習</b> ・ 実習 )	授業担当者  柳田 真理子	当該科目に関する 実務経験  保育士
授業の回数  15 回	時間数 (単位数)  30 時間 (1 単位)	配当学年・時期  2 年・前期	必修・選択  選択
[授業の目的・ねらい] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育実習の意義と目的を理解し、実習に向けた目的意識を高め、課題を持って実習に取り組めるように学ぶとともに、実習記録に関する指導、指導案の書き方や教材準備、保育実技など、実習を円滑に進めるための知識や技術を習得する。</li> </ul>			
[授業全体の内容の概要] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。</li> <li>・ 実習を通して援助の方法を具体的に体得する。</li> <li>・ 実習を通して施設職員の役割と連携を理解する。</li> </ul>			
[授業終了時の達成課題 (到達目標) ] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育士としての意識を高め、技術を習得することができる。</li> <li>・ 自らの保育実習における課題を明確にして取り組み、保育者として豊かな人間性を育む。</li> </ul>			
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  1. 保育実習Ⅰ(施設)についてのエピソードや反省点を発表する 2. 反省点についてディスカッションをする 3. 児童福祉施設 11 種類について内容を把握する 4. 障害の種類を知る 5. 実習中に起きた問題点について 6. 実習中に評価された点について 7. 着脱・排泄について(演習) 8. 車椅子について(演習) 9. 予定実習園の施設概要、実習課題、実習課題について 10.                                 // 11. 記録方法について 12. 実習のレク活動についての準備 13.                                 // 14. 保育実習Ⅲ反省会 15. 保育実習総まとめ			
[使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これからの時代の保育者養成実習ガイド 学生・養成校・実習園が共に学び                         中央法規出版</li> <li>・ 実習の手引き                         ・ 必要に応じて資料プリント配布</li> </ul>			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点(75%)</li> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末考查を実施する。</li> <li>・ 平常点(25%)</li> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul>			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)		授業の種類		授業担当者	当該科目に関する実務経験
保育実践演習①		( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )		河村 和代	保育士
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択		
30 回	60 時間 (2 単位)	2 年・通年	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行い、問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。</li> <li>・ 自らの学びを振り返り、目指す保育者像や自分の課題を明確にする。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。</li> <li>・ 模擬保育を通して自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識、技能を修得する。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育に関する現代的課題について分析、考察、検討ができ、且つ問題解決のための方法を提案することができる。</li> <li>・ 模擬保育を通して、今後の自分の課題を見つける。</li> </ul>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>《前期》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 保育に関する現代的課題とは</li> <li>3. 研究課題決定</li> <li>4～8. 現状分析</li> <li>9～13. 考察</li> <li>14～15. 中間発表</li> </ol> <p>《後期》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>16～20. 検討</li> <li>21～22. 発表・まとめ</li> <li>23～24. 模擬保育設定 (3歳児、4歳児、5歳児、異年齢児、気になる子)</li> <li>25. 模擬保育①</li> <li>26. 模擬保育②</li> <li>27. 模擬保育③</li> <li>28. 模擬保育④</li> <li>29. 模擬保育⑤</li> <li>30. 期末試験</li> </ol>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プリント、資料など適宜配布</li> </ul>					
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 査点 (75%)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末査点を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点 (25%)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>					

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  保育実践演習②		授業の種類  ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )		授業担当者  河村 和代	当該科目に関する実務経験  保育士
授業の回数  30回	時間数 (単位数)  60時間 (2単位)	配当学年・時期  2年・通年	必修・選択  必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行い、問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。</li> <li>・ 自らの学びを振り返り、目指す保育者像や自分の課題を明確にする。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。</li> <li>・ 模擬保育を通して自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識、技能を修得する。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育に関する現代的課題について分析、考察、検討ができ、且つ問題解決のための方法を提案することができる。</li> <li>・ 模擬保育を通して、今後の自分の課題を見つける。</li> </ul>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>《前期》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 保育に関する現代的課題とは</li> <li>3. 研究課題決定</li> <li>4～8. 現状分析</li> <li>9～13. 考察</li> <li>14～15. 中間発表</li> </ol> <p>《後期》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>16～20. 検討</li> <li>21～22. 発表・まとめ</li> <li>23～24. 模擬保育設定 (3歳児、4歳児、5歳児、異年齢児、気になる子)</li> <li>25. 模擬保育①</li> <li>26. 模擬保育②</li> <li>27. 模擬保育③</li> <li>28. 模擬保育④</li> <li>29. 模擬保育⑤</li> <li>30. 期末試験</li> </ol>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プリント、資料など適宜配布</li> </ul>					
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 査点 (75%)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末査点を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点 (25%)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>					

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  保育者論	授業の種類  ( 講義 ) ・ 演習 ・ 実習 )	授業担当者  柳田 真理子	当該科目に関する実務経験  保育士
授業の回数  15 回	時間数 (単位数)  30 時間 (2 単位)	配当学年・時期  1 年・後期	必修・選択  必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育士の定義や現在保育士に何が求められているかなどの課題を踏まえ、専門職としての役割、使命を理解する。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育の現場において保育者に求められる働きは多岐にわたるが、その保育者の毎日の働きがどのような意味を持っているのか、そこで尊重していくべきことは何であり何が期待されているのかを考え学ぶ。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育者の役割と倫理について理解する</li> <li>・ 保育士の制度的な位置づけについて理解する</li> <li>・ 保育士の専門性について考慮し、理解する</li> <li>・ 保育者の協働について理解する</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 働く目的と保育職について考える</li> <li>2. 保育者として子どもとどのように向き合うべきか考える</li> <li>3. 保育現場が求める保育者像とは</li> <li>4. 園での保育者の役割と信頼について学ぶ</li> <li>5. 保育者の仕事内容と留意点を理解する</li> <li>6. 子どもに寄り添う保育者とは</li> <li>7. ケース・スタディから保育者の仕事を考える</li> <li>8. 保護者・地域社会と保育者の役割を考える</li> <li>9. 行事に対する保育者の取り組みを理解する</li> <li>10. 保育環境の課題と問題点について考える</li> <li>11. 諸外国の保育の現状と課題を知る</li> <li>12. 保育者の資質とは何か</li> <li>13. 自分の保育観について考える</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 期末試験</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新基本保育シリーズ 保育者論 中央法規出版</li> <li>・ 保育所保育指針 フレーベル館</li> </ul>			
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点 (75%)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点 (25%)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>			

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  保育内容総論	授業の種類  ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者  青田 由美子	当該科目に関する 実務経験  保育士
授業の回数  15回	時間数 (単位数)  30時間 (1単位)	配当学年・時期  1年・前期	必修・選択  必修
[授業の目的・ねらい] ・ 保育内容を幼児の生活そのものと捉え、それらを構成しているさまざまな事象を、理論面・実践面の両面から学んでいく。 [授業全体の内容の概要] 1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・評価・改善)につなげて理解する。 4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・ 学生自らの主体的態度を育み、保育者として必要な保育実践力を身につける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 第1章 保育内容とは何か① 2. 第1章 保育内容とは何か② 3. 第1章 保育内容とは何か③ 4. 第2章 心身の健康に関する領域「健康」① 5. 第2章 心身の健康に関する領域「健康」② 6. 第3章 人との関わりに関する領域「人間関係」① 7. 第3章 人との関わりに関する領域「人間関係」② 8. 第4章 身近な環境との関わりに関する領域「環境」① 9. 第4章 身近な環境との関わりに関する領域「環境」② 10. 第5章 言葉の獲得に関する領域「言葉」① 11. 第5章 言葉の獲得に関する領域「言葉」② 12. 第6章 感性と表現に関わる領域「表現」 13. 第7章 3歳未満児の保育内容 14. 第8章 「養護」について 15. 期末試験			
[使用テキスト] 保育・幼児教育シリーズ 保育内容総論 (大豆生田啓友・田澤里喜 編著/玉川大学出版部) [参考文献] 保育内容総論 あなたならどうしますか? (酒井幸子・守巧 編著/萌文書林)			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			

